

(53の右端)が見られる。三界萬靈碑はこの墓地に葬られている人々の供養碑である。江戸時代を通じて作られている。六地藏は死後六道に迷う人々を救う役割を担っている。六地藏の造立は急激な流行を見せるときがあり、大和の例ではその時代分布はグラフ11に見る如くである。棺台には受け花蓮台形のものと、机形のものがある。これは江戸時代後半に入って多く作られるようになる。多くの場合迎え本尊とセットで作られることが多い。この時期にいたって葬送儀礼になんらかの変化のあったことが窺えるのである。江戸時代に入って葬法が火葬から土葬へ変化しつつあった。その墓地における火葬の定着が棺台の出現の背景にあると考えられる。

三界萬靈碑 高 117.0 幅52.5 厚20.4 基礎高10.0 幅58.4 厚42.6 (単位cm)

六地藏 (向って左から)

1 : 高88.0 像高52.8 幅35.7 厚24.6 基礎高12.5 幅41.7 厚46.5

銘文：天和四年甲子

正月四日 飯ノ峯村

2 : 高82.2 像高50.9 幅36.0 厚27.2 基礎高20.5 幅48.4 厚46.0

銘文：飯ノ峯村

3 : 高85.2 像高52.4 幅37.0 厚24.5 基礎高14.5 幅44.5 厚43.3

銘文：飯ノ峯村

4 : 高84.5 像高52.0 幅36.0 厚21.0 基礎高12.5 幅42.5 厚43.0

銘文：飯ノ峯村

5 : 高82.5 像高50.5 幅34.5 厚22.0 基礎高 9.5 幅48.4 厚44.8

銘文：飯ノ峯村

6 : 高81.8 像高52.0 幅31.5 厚22.4 基礎高 8.0 幅41.3 厚40.0

銘文：飯ノ峯村

棺台 高35.5 幅87.0 厚30.5

燈籠 高68.0 幅21.0 厚21.0

銘文：延宝六歳

建立之施主□□□□

正月十五日

B 墓地以外の石造品

① 応永25年銘地藏石仏 (図版73—58・59、第80図)



第80図 応永25年銘地藏石仏

ミノバ谷池の北方尾根の上に位置する。砂岩製の小石仏である。簡単な線刻で合掌手の地藏を表現している。高32.5cm、幅23.4cm、厚7.0cm。小型で、極めて薄い。光背の先端を丸く作る技法、線刻の技法などに室町時代後半の特徴がよく出ている。銘文は

応永廿五年

六月六日

と二行に記すが通常と異なり左右が逆になっており、書き出しが左になっている。

現在 5枚の板石を組み合わせた石祠に納められているが、その祠が本来のものとは考えられない。この石仏は小型ではあるが砂岩製の小型の供養石仏としては古いもので、その類の初期のものとして位置づけられる。また砂岩が庶民階層のもの墓標の類に使用されるようになる初期のものとして注目される。

② 石祠 (図版73—60)

新墓地の下字的場の所で飯ノ峯川が大きく湾曲する場所の右岸に位置する。高106.2cm、幅99.1cm、厚88.6cm。前面を除く三壁面と屋根との組み合わせ構成になっている。床石は薄い未整形の板石を使用するが本来のものとは考えられない。屋根は寄せ棟に作り、葺草屋根風の彫刻が施されている。壁面は奥壁を両壁面が挟む構成になっている。壁面に装飾は見られない。周囲には基壇風に組石がなされている。石祠内部にはなにも残されていない。江戸時代のものと考えられる。

③ 双体神像 (図版73—61)

②の石祠から道を挟んだ反対側の尾根の先端部に名号碑と3体の石佛等がある。おそらく上の神墓地に関わるものと考えられる。中に一つの光背内に2体の座像をやや斜めに配す変わった像容のものが見られる。像容は摩滅して明確ではないが、左の像は衣服の襟らしきものを前に垂らしており、また頭上の膨らみも肉けいとするには不自然で水千様のものと考えられ、神像とするのが自然である。右の像は手を拱手しており神像に通有の形成である。とすとき道を隔てて向かいにある②の石祠との関係が考えられる。おそらく石祠の中に祭られていた物と考えられる。光背の形も縦が短く石祠の軸部空間に丁度はまり込む

大きさといえる。高35.5cm、幅35.5cm、右像高19.0cm、左像高20.0cm。銘文なし。

④名号碑（図版74—62）

②の石祠の道を挟んで向かい側の尾根の先端部に安置してある。基礎石も見られるので当初よりここに置かれたものと考えられる。砂岩製で角の丸い自然石に「南無阿彌陀佛」と大きく陰刻する。底部はやや尖り気味で不安定だが、基礎はその尖りに合わせて彫り窪めてあり、本来からのものか否かは別にして一具のものと考えられる。年号もなく造立年代の明確なことは不明だが、江戸時代のものと考えられる。この位置は大きくいえば新墓地への入口に当るのであり、その故にこの位置が選ばれたといえる。碑身高86.0cm、幅38.0cm、厚22.0cm、基礎高19.0cm、幅59.0cm、厚44.0cm。

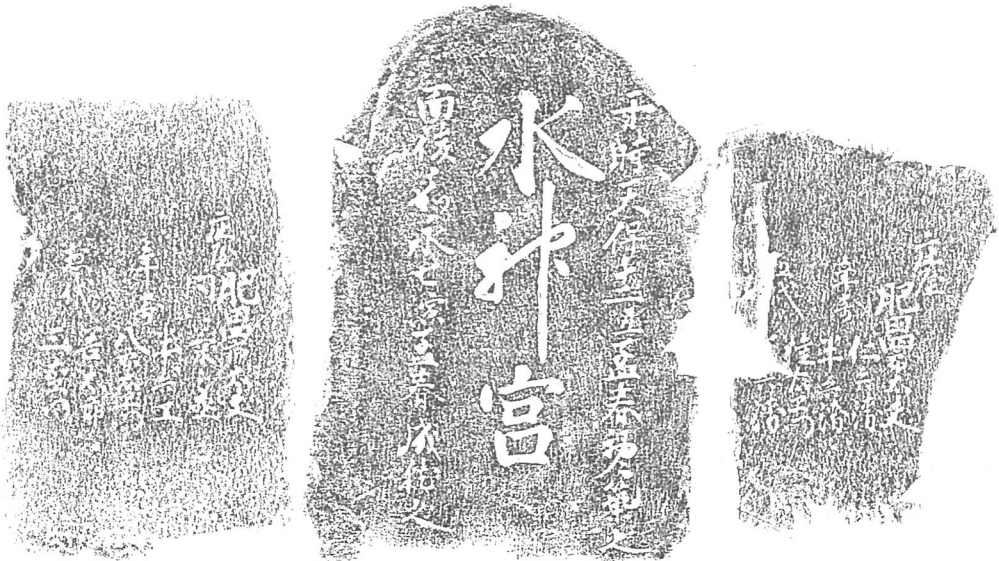
⑤地藏石仏（図版74—64）

舟形的地蔵石仏である。腹部で折れ下部欠損。頭光を線刻する。銘文なし。江戸時代中期のものと考えられる。高22.5cm、幅21.0cm、厚8.5cm像高17.0cm。

⑥地藏石仏（図版74—65）

舟形的地蔵石仏である。小型で光背の基部が狭くなっており、蓮台も省略されており、本来上の墓地のものであろう。江戸時代後期のものと考えられる。銘文なし。高36.5cm、幅21.0cm、厚10.0cm像厚23.0cm。

⑦車谷池改修碑（図版74—67、第81図）



第81図 車谷池改修碑

飯ノ峯川の谷筋と釈迦坊川の谷筋とに跨る大きな車谷池（図版74—66）の改修記念碑である。高77.0+ α cm、幅35.9cm、厚36.6cm。自然石の三面を平坦に整形したもので、次の銘文を刻す。

[右面] 庄屋
 肥田四郎太夫
 仁兵衛
 年寄
 半兵衛
 権右工門
 総代
 □兵衛

[正面] 干時天保十二丑孟春初二築之
 水 神 宮
 而後嘉永七寅孟春成□之

[左面] 肥田四郎太夫
 庄屋
 同 栄之丞
 半兵衛
 年寄
 八郎工門
 善太郎
 総代
 三右工門

この記載から天保12（1841）年に池が作られ、嘉永7（1854）年に修築が行われたことが知られる。右面の人名は天保12年の事績にかかる。この修築はおそらく嘉永4（1851）年の洪水により破壊されたものの修築であったと考えられる。庄屋の肥田姓は現在も箱作に見られる。

⑧地蔵石仏道標1（図版75—68、第82図）

⑨地蔵石仏道標2（図版75—69、第83図）

②～⑥の位置から新墓地に登っていく坂の上と下に道に約50m間隔で2基の地蔵石仏道



第82図 地藏石仏道標1



第83図 地藏石仏道標2

標がある。さかのしたにある⑧は錫杖と宝珠を持つ地藏で、高46.0cm、幅24.0cm、厚17.5cm。銘文は光背部分と背面に次のように見られる。

[正面] 右ハ波有手道
 ㍻ (地藏立像)
 左ハ箱作 道

[背面] 願主
 藤十郎

方位から見て、現位置よりもう少し下で飯ノ峯川沿いの道の奥に向けて立てられていたと考えられる。

坂の上にある⑨は合掌手の地藏で高51.5cm、幅23.5cm、厚12.0cm。銘文は光背部分と背面に次のように見られる。

[正面] 右ハ桑畑石田
 ㍻ (地藏立像)
 左ハ波有手

[背面] 願主
 藤十郎

⑨には基礎石が残る。銘文から見て現在位置に置かれたものと考えてよい。基礎石の方

向は道に向って立てられているのではなく、道に平行しており歩いてくる人と向き合うように立てられており、かつての位置を踏襲していると考えてよい。

⑧・⑨は願主銘・銘文の書き方から父子或兄弟で同時に発願したものと考えられる。年号銘が見られないので明確なことは言えないが、墓地に残されている石仏を参考に見ると、蓮台の形式は江戸時代第三四半期頃のものに類似している。特に旧墓地の03-03番の宝暦12(1762)年のものに酷似しており、ほぼその頃のものと考えられる。

金剛寺跡周辺の石造品 (図版76-70~76)

飯ノ峯畑の一つ東の釈迦坊川によって形成された谷あいの左岸に金剛寺の字名が残っており、かつて金剛寺と呼ばれる寺の存在したことが知られる。その周辺で6基の石塔・石仏類が残されているがその中に無縫塔が1基残されておりこの寺の僧のものと考えられる。この寺の周辺に墓地が営まれていたと考えられ、これらの石塔は殆どが地中から掘り出されたものである。この寺の廃絶も嘉永4年の洪水によるものと考えてよいだろう。

⑩無縫塔 (図版76-70)

最初は塔身のみが地上にあったが、そのそばから基礎が発見された。基礎平面は奥行き深い長方形であり、上面には甲盛り状に隅切り方形の造り出がある。その造りだしの中央に六角形の彫り込みが見られる。本来は基礎の上に六角柱の中台が載り、その上に受け花の蓮台が載り、その上に塔身が載る形であったと考えられる。塔身には銘文は刻まれていず、失われた中台の部分に銘文は刻まれていたと考えられる。銘文がないので何とも言えないが、形からみて江戸時代の中期的のものと考えられる。

⑪圭頭五輪板碑一寛永9(1632)年(図版76-72、第84図)

圭頭状の板碑に五輪塔が半浮彫してある。基礎部分には葉研彫りの蓮華が彫られている。板碑先端部分はやや前傾する。銘文は五輪塔部分に

寛永九年

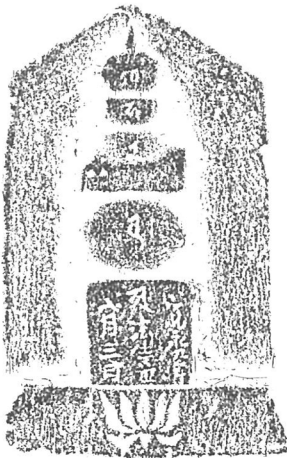
𑖀𑖄𑖅𑖆𑖇 宝生□

八月三日

とある。高41.3cm、幅26.0cm、厚10.7cm

⑫圭頭五輪板碑一万治3(1660)年(図版76-73、第85図)

圭頭状の板碑に五輪塔を半浮彫してある。周囲に輪郭を巻き基礎部分には葉研彫りの蓮華を刻む。五輪塔の地輪は高くな



第84図 圭頭五輪板碑

り⑪のものより時代的に下ることを示している。銘文は五輪塔部分に

万治三年
𑖀𑖄𑖅𑖆 為禪定尼
八月廿六日

とある。高39.0cm、幅23.6cm、厚14.3cm。

⑬圭頭戒名板碑—宝永元（1704）年（図版76—74）

圭頭状の板碑に戒名をしるす。輪郭を巻き、頂部を尖らせた隅入りの繰り込み面を作り、そこに戒名と年号を記す。基礎部分には線刻の蓮華を刻す。銘文は

宝永元年
𑖀𑖄 教圓信士
十一月十五日

とある。高43.8cm、幅22.3cm、厚16.8cm。

⑭石仏（図版76—75）

金剛寺跡の西の山際を通る道の山側の側壁に一部を露出させ埋もれていたものである。頭部の丸い光背上に定印の阿弥陀如来を浮彫したものである。江戸時代初期の物と考えられる。高32.8cm、像高22.0cm、幅24.0cm、厚21.5cm。

⑮墓標（図版76—76）

金剛寺跡の発掘現場から出土したもので、上部三分の二が欠失している。頭部の形は不明だが、おそらく圭頭状であったと考えられる。周囲に輪郭を巻き、基礎部分には葉研彫の簾華を刻す。銘文は「□□□墓」とあるだけである。高39.7cm、幅35.6cm、厚20.1cm。

どうろくさんの石造遺品（図版77）

飯ノ峯畑集落の南はずれに「どうろくさん」と呼ぶ祠がある。飯田家で管理している。ここにもいくつかの石造遺品が見られるが、殆ど近現代のものである。

⑯手洗鉢（図版77—78） 無銘

高30.5cm、幅44.0cm、厚25.0cm。

⑰花立て 一對 無銘

左（図版77—79） 高33.0cm+ α （根部）、径14.0cm。

右（図版77—80） 高33.0cm+ α （根部）、径15.4cm。



第85図 圭頭五輪板碑

⑱灯籠（図版77—81）

火袋のみ灯籠部分で、他は薄く割った板石で、加工痕なし。

高82.0cm、火袋高22.8cm、

火袋幅23.5cm、火袋厚22.8cm、

⑲灯籠（図版77—82）

現代のものである。銘文は

[正面] 奉 納

[背面] 昭和三十七年二月建之

馬太郎

飯田

妻コトヨ

高161.0cm、傘幅50.5cm。

箱作辨財天の石造遺品（図版78）

箱作辨財天は飯ノ峯畑の西の山の頂上にある。本尊の辨財天は小型の木造であり、江戸時代の作である。その周辺に五つの石造遺品がみられる。

⑳灯籠（図版78—83） 元文5（1740）

宝珠・笠と火袋の半分を欠失。竿も大きく破損している。高130.0cm、中台幅40.0cm。

銘文は

[正面] 奉寄進 辨財天

[右面] 元文五庚申歳

[左面] 正月吉日

㉑鳥居（図版78—84） 享和元（1801）年

貫の中央部が折れて欠損。高232.0cm+ α

[右柱] 享和元辛酉年十二月吉日

[左柱] 辨財天講中

㉒手洗鉢（図版78—85） 文化6（1809）年

高40.3cm、幅60.7cm、講34.0cm。銘文は

[文化六己巳年正月吉日]

㉓石祠（図版78—86）

入母屋屋根の形をしており、妻入りに組立られている。高67.0cm、屋根幅58.0×59.0cm

基礎高26.3cm（基礎は2段）

②④石仏（図版78—87）

86の石祠内に納められていた地藏石仏である。先端の丸くなった光背に半浮彫している。江戸時代前期の物と考えられる。高31.0cm、幅19.0cm、厚7.0cm。

畑の宮の石造遺品（図版79）

飯ノ峯畑の谷に営まれた田が終わる辺りの西の山際に畑の宮と呼ばれている祠（図版79—89）がある。その一角に木造の祠を中心にして灯籠1基と石祠が3棟みられる。

②⑤灯籠（図版79—90）享保13（1728）基礎・中台に蓮弁などの彫刻がなく、簡素な灯籠である。竿の部分に

邑中

戊

享保十三年 稔正月吉日

申

の銘がある。江戸時代中期に遡る祠であることが知られる。

②⑥石祠（図版79—91）

板石を組み合わせたうえで屋根を載せただけの簡単な造りの祠である。屋根の形は入母屋である。整形は極めて荒く割った面をそのまま残している。内部に小型の舟形板碑状の石が納められている。

その表面は平坦に整形されているが、何も刻されていない。或は墨書であったかとも考えられる。時代的には江戸時代も末か明治に入ってからのものではないかと考えられる。

高43.0cm、屋根幅39.0×27.2cm。

②⑦石祠（図版79—93）

②⑥とほぼ同じ作りをしている。内部には丸い石が納められている。大きさはやや大きく、高48.0cm、屋根幅35.3×35.5cm。

②⑧石祠（図版79—93）

構造的にはどの祠ともかわらないが、前二者より大きく、造りも丁寧である。基礎石には壁石が立てられるように浅いほぞが掘ってある。前面の蓋石には宝珠形の穴が開けてある。屋根は寄せ棟である。高62.0cm、屋根幅44.0×46.0cm。

阪南町飯ノ峯畑旧・新墓地墓標調査

五輪塔		本体		台座・基礎		備考						
番号	元号年月日	西曆	銘	文	高	幅	厚					
1			無銘		15.8	21.6	21.6	水輪のみ				
2			無銘		25.8	11.7	11.3	9.0	22.0	22.0	22.0	一石五輪塔、蓮台とは別物

無縫塔		本体		台座・基礎		所在		備考	
番号	元号年月日	西曆	銘	文	高	幅	厚	所在	備考
1	宝永070628	17100628	浄誓□求法師	宝永七寅年六月廿八日	58.0	28.9		新墓地03-14	
2	享保021117	17171117	口普頓称大徳	享保二十一年十一月十七日	40.5	22.0		新墓地03-16	
3	享保100617	17250617	雲峯壽仙尼	享保十巳歳六月十七日	32.5	18.9		旧墓地04-06	
4	宝暦130423	17630423	慈誓梅吟和尚	當□□□薰蓮社/宝暦十三丁未四月二十三日	49.0	27.8		新墓地03-12	塔身一部欠損
5	文化101121	18131121	教誓清覚園道大徳	文化十酉歳/十一月二十一日	42.5	23.8			

圭頭五輪板碑		本体		蓮台・基礎		所在		備考				
番号	元号年月日	西曆	銘	文	高	幅	厚	所在	備考			
1	正保040606	16470606	キヤカラバア	道□禪	正保四年/六月六日	51.0	28.2	14.0	旧墓地07-13	まん中で上下に割れる		
2	慶安020817	16490817	キヤカラバア	秀伴禪門	慶安二年/八月十七日	65.4	34.0	17.5	13.0	39.0	39.0	左上部欠損
3	正保040000	16440000	正保□□		27.0	30.5	08.0		旧墓地07-14			上下両端欠損
4	承応041015	16551015	キヤカラバア	妙堂□	承応四年/十月十五日	60.5	35.3	18.0		旧墓地07-04		双塔、塔高37.5、塔幅8.8、塔高37.5、塔幅9.0
5	延宝040417	16760417	空風火水地	空風火水地	延宝四年/辰十二年十七日	70.5	46.4	12.2		旧墓地06-01		双塔、塔高44.0、塔幅13.0、塔高44.0、塔幅12.5
6	寛文	0825	キヤカラバア	妙月禪尼	寛文□□/八月廿五日	43.3	28.5	15.5		旧墓地07-03		空輪以上欠失

7	キヤカラバア / □童子 / 五月廿六日	49.7	26.5	13.0	24.3	37.5	36.0	新墓地04-08	台とは一具に あらず
8	キヤカラバア 宗蓮禪門 / キヤカラバア 妙蓮禪尼	89.3	38.0	10.0	11.0	44.0	39.0	新墓地04-11	台とは一具に あらず

圭頭文字板碑		本 体						蓮台・基礎			備 考
番号	元号年月日	西 曆	銘 文	高	幅 厚	高	幅 厚	所 在	備 考		
1	承応040713	16550713	キリイクササク / 妙車禪定尼靈位 / 承応四年 / 七月四日	81.5	43.2	13.5		旧墓地06-02			
2	明暦030204	16570204	為休山禪定門 / 明暦三年 / 二月四日	60.5	32.0	13.5	13.0	旧墓地04-15	台石とは別石		
3	万治020910	16590910	為清心禪定門 / 万治二年 / 九月十日	54.5	27.9	12.5	29.0	新墓地04-05	台石は別石		
4	万治030929	16600929	為浄休禪定門 / 万治三年 / 九月廿九日	81.5	38.5	16.8		旧墓地07-09			
5	寛文030221	16630221	覚翁玄吳信士 / 寛文三稔 / 二月廿一日	48.0	34.0	08.4		旧墓地07-08	頂部輪郭・下 端部欠失		
6	寛文041112	16641112	□□□□ / 寛文四丙午 / 霜月十二日	58.3	30.8	08.0		旧墓地07-02	表面剥げて銘 文判読困難		
7	寛文061203	16661203	□範好雪信士 / 寛文六稔 / 十二月三日	56.3	30.7	15.3		旧墓地07-06	中央やや上部 で半切		
8	寛文070824	16670824	歌咄嬰絶休信士 / 寛文七丁未 / 八月廿四日	80.0	40.0	21.0		新墓地05-09			
9	寛文110306	16710306	帛元花岳了春信女 / 寛文十一年 / 三月六日	79.8	40.0	11.7		旧墓地06-07			
10	延宝131724	16750724	帛元 吳位 / 延宝三歳七月廿四日	63.5	31.5	11.0		旧墓地06-04			
11	延宝050803	16770803	帛元目川宝性吳位 / 巳延宝五歳八月三日	52.2	31.5	15.0		新墓地05-17			
12	延宝080204	16800204	□為梅園浄香信女吳位 / 宝八年 / 二月四日	57.2	29.0	12.8		旧墓地07-11			
13	貞享040917	16870917	物故了蓮信士靈位 / 貞享四年 / 卯九月十七日	77.2	31.8	30.5	17.1	32.0	30.5	新墓地07-13	台座は別物
14	元禄020707	16890707	浄華脱心信士 / 元禄二年 / 巳七月七日	61.0	28.0	10.7		旧墓地06-03			
15	元禄030818	16900818	帛元道圓童子靈位 / 元禄三年 / 午八月十八日	55.5	24.0	12.5	19.8	31.4	25.0	新墓地07-14	台座は別物
16	元禄040704	16910714	□元樹清信女靈位 / 元禄四年未 / 七月四日	52.0	24.0	17.0		新墓地05-10	年月日は輪郭 に刻す		
17	元禄160230	17030230	○妙是信女吳位 / 元禄十六年 / 二月卅日	46.5	24.0	13.0		旧墓地07-01	線刻蓮華		
18	元禄160619	17030619	心空浄圓信士 / 元禄十六年 / 癸未六月十九日	44.5	22.0	15.0		旧墓地03-13	蓮台なし		
19	元禄161114	17031114	蘭室惠薫信女 / 宝永十五年廿四日 / 一難通心信士 / 元禄十六年 / 十一月十四日	61.0	29.5	17.4		旧墓地07-12	蓮台なし		
20	宝永040123	17070123	○宗林信士 / 宝永四亥年 / 正月廿三日	47.3	18.5	11.4		旧墓地07-05	蓮台なし		
21	正徳050702	17150702	○無的信士 / 正徳五天 / 七月二日	46.2	20.7	15.6	12.5	30.3	26.8	新墓地02-09	基礎下段は別 石
							13.5	35.0	36.3		

22	享保031012	17181012	○寛峯孤園／享保三戌天／壬十月十二日	61.8	28.0	12.4		旧墓地05-02	縁刻蓮華
23	享保080000	17230000	○□□□□女／享保八□／□□□□□□ □□□□女／享保□□／亥三月□日	63.3	29.0	11.0		旧墓地07-15	蓮台なし、亥は享保4(1719)、16(1730)に当てる
24	000719	00000719	滋禪栄童男／巳七月十九日	53.0	29.5	17.5		旧墓地07-19	葉研彫り蓮華
25	000000	00000000	□□□□靈位	29.0	31.5	16.0		旧墓地07-18	葉研彫り蓮華
26	000000	00000000	浄園信□灵位	55.0	31.0	11.7		旧墓地07-17	蓮台なし
27	000000	00000000	道□禪門灵位	40.5	36.4	18.0		旧墓地07-16	蓮台なし
28	000000	00000000	○春光童子	38.4	23.2	13.8		新墓地08-01	紀年銘なし、蓮台なし
29	000000	00000000	清秋童子	47.2	18.2	11.5		新墓地05-03	紀年銘なし、蓮台なし
30	000000	00000000	○智流童子	49.6	19.5	8.0		新墓地03-01	紀年銘なし、蓮台なし

自然石墓標		運台・基礎		本体		運台・基礎		所在		備考	
番号	元号年月日	西曆	銘文	高	幅	厚	高	幅	厚	所在	備考
1	寛政010925	17890925	秋月妙光信女 ○ 釋 妙意尼 墓	98.0	52.5	32.0				旧墓地02-04	
2	寛政071225	17951225	冬岸智榮信女／寛政七卯年／十二年廿五日	67.0	36.0	16.0	17.0	48.5	41.5	新墓地02-07	基礎は別石
3	大正020605	19130605	石川誠郎子之奥城／大正二年六月五日	77.7	37.4	27.5	11.0	74.0	39.0	新墓地10-05	紀年銘なし
4	000000	00000000	香萬童子	32.0	19.0	18.0				新墓地04-04	紀年銘なし
5	000000	00000000	空葉童子	44.0	17.0	14.5				新墓地04-02	紀年銘なし
6	000000	00000000	○貞梅童子	40.0	17.1	5.5				新墓地04-01	紀年銘なし
7	000000	00000000	冬岸智榮信女	30.5	16.5	9.1	11.8	38.2	29.0	新墓地02-01	基礎は別石、紀年銘なし 2と同名

櫛形墓標		運台・基礎		本体		運台・基礎		所在		備考	
番号	元号年月日	西曆	銘文	高	幅	厚	高	幅	厚	所在	備考
1	宝永070404	17100404	坂真 道心禪定門／四月四日／梅臺永見信女／宝永七年寅正月廿四日	54.7	23.5	16.5				旧墓地07-07	

2	正徳020714	17120714	17120714	清真信士 / 正徳二辰七月十四日 歸一 吳 正因信女 / 宝永六丑九月七日	65.7 : 27.0 : 19.5				旧墓地02-05	
3	正徳031026	17131026	17131026	明徳通元信士 / 天和三年五月廿八日 孤岳栄正信女 / 正徳元巳十月廿六日	56.0 : 22.2 : 14.7	16.1	31.5	35.5	新墓地07-07	
4	享保011215	17161215	17161215	石巖大椿信士 / 宝永六己丑三月十九日 運 靈 一空妙元信女 / 享保元年十二月十九日	66.8 : 26.1	18.0			旧墓地04-03	
5	享保070306	17220306	17220306	空雙紹寂信士 / 享保七寅三月六日 ○ 吳 遊岳妙通信女 / 享保五庚子六月廿一日	65.5 : 27.0 : 15.5	18.0	37.5	31.5	旧墓地02-01	
6	享保120911	17270911	17270911	松溪秀山居士 / 享保十二丁未九月十一日 一會 靈 蘭溪理秀信女 / 宝永六己丑八月廿六日	63.5 : 24.5 : 17.5	23.6	38.5	30.0	新墓地07-08	輪郭なし
7	享保161121	17311121	17311121	春峯自曹信士 / 元禄十六癸未六月廿九日 ○ 椿山妙雲信女 / 享保十六亥十一月廿一日	57.0 : 24.0 : 17.5				旧墓地05-03	
8	享保180122	17330122	17330122	心空浄圓信士 / 享保十八丑天正月廿二日 ○ 吳 天山恵休信女 / 享保十四酉閏九月六日	59.5 : 26.5 : 15.0				旧墓地05-01	
9	享保190828	17340828	17340828	○禪通信士 吳 / 享保十九天 / 寅八月廿八日	53.5 : 25.3 : 10.5				旧墓地07-10	
10	享保191128	17341128	17341128	寒溪宗珠信士 / 享保十九甲寅十一月廿八日 會 江山義涼信女 / 享保十七壬子閏五月廿五日	63.0 : 27.5 : 16.8				旧墓地04-02	
11	享保20011?	1735011?	1735011?	幻山道右信士 / 正徳五乙未六月十六日 綿空 靈 清林智芳信女 / 享保廿乙卯正月十□□	38.2 : 25.3 : 15.4	12.0	39.0	39.0	新墓地04-03	
12	元文030227	17380227	17380227	會幽峯宗源信士 / 元文三戌午天 / 二月廿七日	53.0 : 23.5 : 14.4	17.6	34.1	29.4	旧墓地04-34	3段目基礎に 文様を刻む
13	寛保020906	17420906	17420906	○江月清圓信女 / 寛保二壬戌 / 九月六日	54.0 : 23.3 : 14.0				旧墓地05-08	輪郭なし
14	寛延010114	17480114	17480114	春岩浄貞信士 / 享保廿乙卯年 綿元 法屋妙性信女 / 法寛延元戌辰正月十四日 / 正月廿八日	65.5 : 28.2 : 17.0	18.6	36.0	33.5	旧墓地03-10	寛延の年号が 後に彫られて いる。基礎1 段目は2石、 厚36.0+38.0

15	寛延030904	17500904	□□□□信士／秋月童女／寛延三庚午九月四日	44.5	21.0	14.0	19.5	37.3	37.5	旧墓地03-07	秋月は右側 面、基礎別物
16	寛延040712	17510712	秋岳傳心信士／正徳五未八月廿七日 綿元 靈 一峰妙空信女／寛延辛未七月十二日	54.9	32.4	14.8	5.5	58.0	?	新墓地06-08	基礎3段目は 諸花
17	宝暦040916	17540916	○楓林道壽信士／宝暦四甲戌天九月十六日	59.5	24.0	16.3	18.2	35.0	30.6	旧墓地04-05	正面左側が空 白
18	宝暦050102	17550102	清翁浄球信士／享保十七壬子7月三日 綿元 春嶺清球信女／宝暦五乙亥正月二日	66.0	27.7	16.6	14.5	36.5	33.6	新墓地05-07	
19	宝暦040916	17540916	松庵宗遊信士／享保八癸卯九月八日 秋室妙珠信女／宝暦四甲戌九月十六日	47.5	20.7	12.3				旧墓地04-13	
20	宝暦050305	17550305	智誓信女／宝暦五乙亥／三月五日	45.0	22.5	14.1				旧墓地03-08	地藏座像(高 :19.0)を彫る
21	宝暦071223	17571223	梅霊信士／宝暦／十二月廿三日	35.0	16.5	11.0	11.5	24.5	24.5	新墓地01-05	
22	宝暦080314	17580314	泰岩浄休信士／宝暦八戌寅三月十四日 ○ 元文三戌午九月廿九日／天賀童子／十月十五日	55.7	24.0	15.5				旧墓地02-02	
23	寶暦080808	17580808	實山道休信士／宝暦三葵酉七月十九日 會 實惠妙悟信女／宝暦八戌寅天八月八日	56.6	25.3	26.8	15.5	39.3	33.0	旧墓地03-11	
24	宝暦100213	17600213	松隠宗閑居士／寛保二壬戌天? 大通妙智信女／宝暦十庚辰二月十三日	64.3	27.8	16.7	17.6	36.8	30.7	新墓地07-09	
25	宝暦100420	17600420	岩山大庭信士／享保一丙午天七月廿日 綿真 圓山妙□信女／宝暦十庚辰四月二十日	64.2	25.0	15.0				旧墓地02-06	左隅下が割れ る。
26	宝暦101116	17601116	○松星宗休信士／宝暦十庚辰天／十一月十六日	52.5	25.0	14.0				旧墓地04-04	
27	宝暦121211	17621211	天岩浄貞信士／元文四未六月五日 ○ 宝暦十二壬午十二月十一日	55.5	23.9	15.2	15.0	33.0	30.0	旧墓地05-05	
28	明和071209	17701209	松岳宗壽信士／明和七庚寅天十二月九日 一會 梅窓珠清信女／宝暦九己卯天十一月廿日	61.5	26.0	17.0	16.2	36.5	29.5	新墓地02-05	基礎1段目葉2 石26.2+24.1
29	安永080215	17790215	觀應道雪信士／安永八己亥天／二月十五日 □山智榮信女／宝暦六丙古天十一月二日	36.0	20.0	15.4	14.5	28.2	23.4	新墓地02-04	

30	安永090905	17800905	? 月宗圓信士 / 宝曆三酉五月二日 靈	52.9	23.4	14.2	14.6	35.2	30.2	新墓地06-06
			秋山智光信女 / 安永九庚子年九月五日				9.0	40.8	36.6	
31	天明040918	17840918	智珠童子 / 明和六丑年六月廿六日	51.0	24.9	15.5	26.5	35.7	33.9	旧墓地03-04
			一庭休心信士 / 天明四甲辰年九月十八日							輪郭なし、上面が平坦
32	天明041129	17841129	寒庭智梅信士 / 天明四辰年十一月廿九日	46.0	21.5	14.1	11.0	32.0	36.4	新墓地02-03
33	天明061026	17861026	端正自的信士 / 天明六丙午十月廿六日	58.8	23.8	15.2	21.5	41.6	39.3	新墓地06-07
			? 室妙然信士 / 享和元酉十月廿五日				7.0	62.5	?	
34	寛政090724	17950724	本源誓性信士 / 天明元丑十二月廿日	61.0	25.8	18.9	18.5	39.3	30.6	新墓地01-11
			秋月妙照信女 / 寛政九巳年七月廿四日							
35	寛政080116	17960116	(地藏座像) 徹山道鐘居士 / 享和元酉年二月三日 (右側面) 静室智明信女 / 寛延元辰年十月十八日 智格童子 / 天明三?年五月廿九日 光山智星童子 / 寛政元酉年七月五日 (左側面) 安光童子 / 寛政三亥歳七月八日 泡水童子 / 寛政八辰年正月十六日	60.8	25.4	16.8	16.8	36.8	33.1	新墓地07-06
							21.7	51.0	46.2	像高16.2cm、舟形光背、輪郭なし
36	寛政130203	18010203	徹山道鐘居士 / 寛政十三酉二月三日 一會	64.9	27.4	17.3	14.0	41.2	33.3	新墓地05-22
			松岳妙林禪尼							
37	享和010316	18010316	圭峯義春信士靈位 / 享和元辛酉年三月十六日	51.5	24.2	16.2				新墓地05-23
38	文化030708	18060708	心了智達信士 / 文化三丙寅七月八日 / 俗名 / 吉左衛門	47.5	21.4	13.1	13.0	27.4	24.0	新墓地04-21
39	文化050102	18080102	浄岳宗照 / 文化五年辰正月二日 靈	45.6	21.2	15.5	12.0	34.0	25.5	新墓地02-02
			秋岩智明 / 安永八亥年八月十三日				18.0	43.1	45.0	輪郭なし、台は別物
40	文化061202	18091202	一翁道機信士 / 宝曆五乙亥四月廿九日 會	50.8	25.2	17.7	16.1	35.2	30.4	新墓地03-02
			雪岩妙立信女 / 文化六年巳年十二月二日				19.0	47.1	41.0	台石は別物
41	文化090921	18120921	春峯常心信士 / 寛政八辰年正月七日	63.5	25.2	18.2	18.5	37.5	30.0	新墓地05-06
			大岳智勝信士 / 文化九申九月廿一日				?	53.0	?	
42	文化120909	18150909	觀光智念信士 / 文化十二亥九月九日 圓室妙通信女 / 寛政十年二月廿日	52.7	25.0	16.7	15.2	37.2	31.7	新墓地04-33
							21.4	49.5	42.8	

43	文化130708	18160708	義開道尊居士／文化七午歲九月廿一日 ○ 專室妙義大姉／文化十三年七月八日	55.0	24.0	17.7	15.5 9.5	33.7 45.5	29.5 44.5	新墓地07-05	
44	天保031115	18321115	鶴翁智丹居士／鶴天保三辰壬辰十一月十五日 浄相智觀大姉／浄文政十三庚寅年十一月十五日 十却惠通信士／十文政七年七月八日	55.5	25.7	16.2	18.5	38.8	35.4	新墓地05-25	
45	天保070224	18360224	頓室智圓信女／頓天保五年二月十一日 圓室良頓信士靈／圓天保六年十月廿六日 釋 真 成／天保七申二月廿四日	64.2	28.5	17.8	14.0	34.0	34.8	新墓地01-06	
46	天保130505	18420505	梅室自標信女／台文政六年六月廿二日／梅天保十 三寅年五月五日 ○台庵宗元信士／ 心相惠觀信士／心文政十二巳二月六日	58.0	28.0	17.2	16.5	42.2	37.0	新墓地01-09	台、梅の年号 は右側面
48	天保141121	18431121	益叟全利信士／天保七申年八月十二日 ○ 利屋智益信女／天保十四癸卯年霜月廿一日	57.4	25.8	16.9	17.0 22.0	39.2 49.5	35.5 48.3	新墓地04-28	
49	弘化020720	18450720	宗月智光信士靈／弘化二巳年七月七日	42.5	21.0	11.2	12.0	28.0	29.3	新墓地01-07	輪郭なし
50	弘化021013	18451013	本覺了然信士／本享和三亥年八月九日 ○桃岳禪悟信士靈／桃天保十一子年三月九日 證岳妙禪信女／證弘化二巳年十月十三日	64.2	28.1	19.5	19.9 9.5	43.3 61.8	36.2 51.0	新墓地06-09	年号は全て左 側面
51	嘉永030906	18500906	徳翁宗善信士／嘉永二酉年九月十三日 ○ 善應亮哉大姉／嘉永三戌九月念六日	58.6	25.4	17.0	16.6 20.7	37.7 49.0	30.2 43.4	新墓地04-35	
52	嘉永040713	18510713	證山玄修信士／嘉永四亥年七月十二日 ○ 段嶺懋充信女	68.5	29.0	18.8	21.2 21.9	43.5 43.5	36.6 ?	新墓地05-04	
53	嘉永040713	18510713	真岳禪貞信士／嘉永四亥年七月十三日 ○? 叟義方信士 運臺智芳信女	58.5	26.2	16.2	18.1 21.0	38.0 52.0	33.0 45.1	新墓地05-05	
54	安政010502	18540502	涼州宗温居士／安政元甲寅五月二日 ○ 温室智? 大姉／嘉永元甲午三月廿二日	56.2	24.5	16.8	14.5	35.5	29.2	新墓地05-21	
55	安政010504	18540504	涼州宗温居士／安政元甲寅五月四日 ○ 涼州宗蔭大姉／文政十甲申六月十八日	56.1	24.2	16.4	18.4 8.6	36.7 49.3	37.5 49.0	新墓地07-04	

56	安政060826	18590826	一閑了道居士／安政六未年八月廿二日 靈 ○ 禪室妙悟大師／安政六未年八月廿六日	73.0	29.0	23.2	24.5	54.5	51.8	新墓地04-37	蓮台あり 18.8 48.2 42.5
57	文久020901	18620901	○真觀智性信女／文久二戌年九月朔日	54.5	24.2	17.1	15.2	35.4	30.1	新墓地04-36	
58	文久021012	18621012	○ 靈 靈光？快信女／文久二戌年十月十二日	69.4	28.0	28.6	18.0	43.8	38.0	新墓地04-25	手水鉢あり 山本利兵
59	明治010817	18680817	○ 義山禪貞居士／弘嘉化二巳年八月十九日 忠應妙恕禪女／明治戊辰八月十七日	56.6	24.8	17.0	18.0	37.0	31.8	新墓地07-03	
60	明治200205	18870205	○ 仁堂玄義禪士／真如妙空信女明治二十亥年二月五日 清室妙香禪女／明治十二卯年十月二十一日明治十八 酉年八月十七日	68.4	26.2	21.0	22.5	51.0	48.0	新墓地05-01	蓮台あり 15.0 42.2 37.2
70	昭和15412	197912	智子俊？見／昭和五十四年十二月飯田貞治郎建之	49.7	22.7	15.0	15.2	34.7	23.5	新墓地09-04	






櫛形墓標		本 体		蓮台・基礎		所 在		備 考			
番号	元号年月日	西 曆	銘 文	高	幅	厚	高	幅	厚		
1	元文020522	17370522	涼雲信士／元文二年／巳五月廿二日	34.0	23.0	22.9	19.3	39.0	35.8	新墓地02-06	台は別石
2	寛保021123	17421123	○貞梅童子／寛保二年戌十一月廿三日	34.0	20.0	18.2				旧墓地05-06	
3	宝曆040921	17540921	○ 松月智光信士／宝曆四甲戌九月廿一日 智珠信士／宝曆四甲戌二月十六日	47.5	18.8	17.5	11.0	27.0	28.3	新墓地01-04	
4	天明070707	17870707	○ 仁岳宗義信士／天明七丁未年七月七日／仁天明元丑 年十月廿八日 靈 ？室智貞信女	63.8	24.3	23.8	12.0	31.0	29.5	旧墓地01-11	1層基礎石は 2石 30.2+24.5cm
5	享和020210	18020210	○ 心月妙空信女／ 備元仙翁遺玄禪定門 心 仙 享和二壬戌年十二月十日 自得妙性信女	46.5	21.2	21.2				旧墓地03-12	年号は全て右 側面









6	文化110814	18140814	寛政元西七月九日俗名おさん智室妙閑信女／寛政三亥年七月十九日 禪義童女 俗名おもん 頓信士七月十六日文化十一戌年八月十四日俗名半七仁岳智禮信士／天明六年一岳了	56.5	20.8	20.8	13.5	33.3	31.5	新墓地01-10
7	文政1307	183007	貞室永亮信女 一會 靈 / 文政十三寅七月建之 雲叟良門信士	58.2	22.9	22.9	11.0	34.5	29.7	旧墓地30-02 輪郭有り
8	嘉永040714	18510714	温州宗泉信士 / 影水童子自主童子汀浮童子各靈 靈 / 嘉永四亥年七月十三日見天保八酉三月二日 ？？ 稽温信女 / 心永淨国信士兔？童子合掌	60.0	24.0	23.0	18.9	39.1	37.9	新墓地04-29
9	明治130923	18800923	智好童女 / 明治十三辰九月廿三日	53.0	16.5	16.0	20.5	31.2	31.5	新墓地05-02
10	明治201008	18871008	通峯慧達居士 靈 / 士明治廿亥年十月八日尼安政三辰年四月十九日 ？室妙？禪尼	66.0	25.3	25.5	14.0	39.5	39.6	新墓地07-15
11	明治420125	19090125	先祖代々の墓 / 春岳智得信士徳室妙順信女 / 士明治四十二年一月廿五日	67.0	26.5	27.5	19.3	41.0	40.5	新墓地01-03
12	大正020520	19130520	泰岩智然禪定門 然室智泰禪定尼 〇 / 大正二年五月二十日	62.0	24.0	24.3	39.0	44.1	44.0	新墓地09-02 塔身のみ花崗岩製
13	大正050525	19160525	故石川市太郎大人之奥城 / 大正五年五月廿五日掃幽	116.0	28.0	28.0	27.5	44.2	44.0	新墓地10-04
14	大正060402	19170402	慈峯宗倫禪定門 / 淳岳智音信士本覺智性信士 〇 清台慈芳禪定尼 / 倫譽智聖禪女？溪智葉信士大正六年四月二日之立	64.4	25.9	25.9	17.9	44.8	43.0	新墓地04-09 山本榮治郎大?????
15	大正0604	191704	石川菊郎女之奥城 / 大正六年四月建之	80.0	21.4	21.4	18.3	34.5	34.2	新墓地10-03
16	大正0903	192003	温室宗純禪士 / 智児 〇 / 大正九年三月 飯田亀太郎建之 ？光智温禪女	61.0	24.1	24.2	27.5	43.4	43.1	新墓地09-01
17	昭和050808	19300808	仁法完通禪定門 仁室妙通禪定尼 / 法昭和五年八月八日亡室 〇 / 飯田秀次建之	62.0	25.7	25.7	25.8	42.5	41.0	新墓地07-16

18	昭和0510	193010	読善智徳禪定門 善法智久禪定尼	昭 _和 五年十月建之 山本善夫	62.0	24.8	24.8	24.2	40.1	40.1	40.1	新墓地10-06
19	昭和0510	193010	真岳淨照禪定門 照室妙順禪定尼	昭 _和 五年十月建之 山本善夫	60.5	24.6	24.6	24.5	39.0	39.0	39.0	新墓地10-07
20	昭和0510	103010	鶴悟 兒 梅樗童子 円悟 女	昭 _和 五年十月建之 山本善夫	54.5	22.2	22.0	16.0	41.2	38.9		新墓地10-08
21	昭和0510	103010	法讚 女	昭 _和 五年十月建之 山本善夫	50.0	20.8	20.7	23.0	37.5	36.2		新墓地10-09
22	昭和0712	193212	禮堂智仁禪定門 仁室智禮禪定尼	法? 兒 昭 _和 七年十二月?	59.0	25.6	24.0	25.5	35.3	35.7		新墓地06-02
23	昭和170722	19420722	潤月智縫信士	昭 _和 十七年七月廿二日 飯田秀治建之	53.3	21.2	21.0	25.5	33.3	33.3		新墓地10-02
24	昭和240105	19490105	天室壽徳禪定尼	俗名マサノ昭 _和 廿一年五月十六日 昭 _和 二十四年一月五日 昭 _和 三十年? 山本講?	60.6	24.1	24.1	22.1	37.2	37.4		新墓地07-02
25	昭和2704	195204	徳泉院貞室慈照大姉	昭 _和 二十七年四月山本雅雄建之	64.0	25.7	24.5	23.7	36.3	35.0		新墓地06-11
26	昭和2803	195303	真? 梅心妙薫信女 真香 女	昭 _和 二十八年三月 井神良一建之	61.0	24.2	24.0	24.4	37.6	38.2		新墓地08-03
27	昭和2803	195303	大雲良深信士 琴室好言信女	昭 _和 二十八年三月 井神良一建之	64.0	26.2	25.7	24.7	39.4	38.5		新墓地08-04
28	昭和3005	195505	林清隠禪定門	俗名昭 _和 二十年月廿七日正太郎昭 _和 廿七年十一月十日 トヨ 昭 _和 三十年五月山本壽男建之 積翠妙圓禪定尼	60.0	24.0	24.0	22.1	37.7	37.7		新墓地06-01

29	昭和3610	196110	故陸軍兵長飯田亀太郎之墓／昭和二十年十一月十五日 朝鮮 鏡南 ／昭和三十六年十月飯田俊一建之 ニテ戦病死 ／大雄院清閑亀遊居士	108. 0	26.6	26.6	26.8	42.0	42.3	26.8	42.0	42.3	新墓地03-17
30	昭和420427	19670427	飯田家之墓／清節浄香信女 ／昭和四十二年四月二十七日亡俗名清子	56.0	22.2	21.6	24.8	36.8	36.6	24.8	36.8	36.6	新墓地10-01
31	昭和450412	16700412	善学靈性童子位／昭和三十三年四月十二日亡俗名山本 繁行年十三才 ／昭和四十五年四月十二日山本建立建 之	54.0	21.6	21.8	24.2	37.0	36.8	24.2	37.0	36.8	新墓地09-05
32	昭和5001	195801	田中家之墓 ／昭和五十年一月吉日田中正喜建之 ／釋二 正定昭和三十三年三月十五日亡正 人五十五才	68.8	27.5	27.6	30.0	43.0	43.0	32.0	62.0	62.0	新墓地11-01
33	昭和5408	197908	飯田家之墓 ／昭和五十四年八月飯田勇建之 ／浄覺智仙信士南仙智空信女位	63.6	24.7	24.7	25.5	39.7	39.7	35.0	58.0	58.0	新墓地01-01
34	昭和5504	198004	山本家之墓／ 光院隠山天竜居士 善應了徹居士 徳 泉院貞室慈照大師 ／昭和五十五年四月山本雅雄建之	69.0	27.7	27.7	30.3	42.8	42.6	36.7	61.3	61.0	新墓地06-10

石 仏		蓮台・基礎										
番号	元号年月日	西 曆	銘 文	高	本 像高	体 幅	厚	高	幅	厚	在 所	備 考
1	寛文08	1668	寛文八申／地藏／正月九日	37.3	24.0	20.6	10.1				旧墓地03-06	
2	延宝080407	16780407	延宝八申年／ 地藏／四月七日	55.5	32.0	28.5	15.2	16.7	32.3	29.8	新墓地04-40	
3	元禄130929	17000929	惠薫童子 元禄十三寅申年九月廿九日／地藏／智輪童 女？ 十月十三日	71.0	51.5	34.0	21.0				新墓地05-15	上欠
4	元禄131014	17001014	亙幻童子／地藏／幻禄十三庚辰十月十四日	44.0	27.0	20.3	13.7				旧墓地07-21	
5	宝永060708	17090708	幻相童子／地藏／宝永己未七月八日	41.0	26.0	20.6	13.6	11.3	24.0	21.3	旧墓地04-01	上下一 具では ない
6	正徳050129	17150129	空盤清？童子／地藏／正徳五乙未正月廿九日	66.0	37.8	30.2	16.0				旧墓地06-05	
7	享保090626	17240626	コ讀信女／地藏／保九辰六月廿六日	21.0	14.0	19.6	13.8				旧墓地01-02	上欠
8	享保090817	17240817	宗月童子／地藏／享保九辰八月廿七日	62.0	35.0	29.0	17.0	16.0	36.3	28.3	新墓地04-13	上下列

9	享保090823	17240823	淳？童女／地藏／享保九年辰八月廿三日	44.5	25.5	23.5	15.0	16.5	43.2	36.5	旧墓地05-10
								18.0	62.5	50.3	
10	享保180513	17330513	智流童子／地藏／享保十八丑5月十三日	56.0	33.8	25.9	14.0				旧墓地04-07
11	享保200704	17350704	了傳童子／  地藏／享保廿乙卯七月四日	62.0	34.8	25.7	19.0	18.0	33.0	27.5	新墓地04-12
12	元文020616	17370616	智秀童子／地藏／元文二巳年六月十六日	47.0	27.4	24.1	15.2	17.5	41.8	32.3	旧墓地02-03
								19.0	55.5	51.5	最下段 二石
13	元文030703	17380703	靈光童女／地藏／元文三年七月三日	55.8	31.0	27.8	17.3				旧墓地05-09
14	寛保020811	17420811	蘭室妙香信女／地藏／寛保二壬戌八月十一日	59.2	33.0	25.7	15.9				旧墓地05-07
15	延享020902	17450902	秋光童女／  地藏／延享二乙丑九月二日	51.2	29.3	24.5	16.0	15.3	29.5	27.0	新墓地04-24
16	延享050630	17480630	早世幻夏童女？／地藏／延享五戌辰年六月晦日	48.5	27.0	24.0	13.6	14.5	24.5	24.0	旧墓地04-12
17	寛延020610	17490610	知影童女／地藏／寛延二辰巳六月十日	36.0	21.2	20.6	16.5	12.5	22.0	23.0	新墓地04-39
18	宝曆020321	17520321	㊦童子／地藏／㊦童子宝曆二申三月廿一日	31.0	21.0	23.0	12.7				旧墓地04-09
19	宝曆041026	17541026	智泡童子／地藏／宝曆四甲戌十月廿六日	36.8	19.5	18.3	12.5	7.6	38.8	26.5	新墓地04-18
20	宝曆050910	17550910	秋林童子／地藏／宝曆五乙亥九月十日	41.0	25.0	21.6	16.0				旧墓地04-10
21	宝曆070205	17570205	春靈信女／地藏／宝曆七丁丑二月五日	54.0	29.5	29.3	14.6	10.0	31.7	25.8	新墓地06-05
22	宝曆070219	17570219	普明童子／地藏／宝曆七丑二月十九日	41.2	25.0	20.0	15.0	14.0	27.5	31.0	新墓地04-23
23	宝曆070705	17570705	智短信士／地藏／宝曆七丑七月五日	56.0	32.5	26.3	18.3				旧墓地04-11
24	宝曆091226	17591026	晋圭童子／地藏／宝曆九己卯十二月廿六日	49.6	26.5	23.0	16.9				旧墓地04-08
25	宝曆121130	17621130	雪庭妙立信女／  地藏／宝曆十二壬午十一月卅日	55.8	32.6	27.8	15.6				旧墓地03-03
26	明和030629	17660629	明和三戌六月廿九日／地藏／禪證童子	38.0	21.5	21.3	12.3				旧墓地05-11
27	安永060609	17770609	安永六酉年六月九日／地藏／法岩智蓮信女	61.1	34.3	29.3	18.6	17.0	27.5	27.5	旧墓地03-05
28	天明020209	17820209	春夢童子／地藏／天明二寅二月九日	38.6	23.5	21.0	12.0				新墓地04-19
29	寛政080121	17960121	春若童子／地藏／寛政八辰正月廿一日	41.5	23.5	23.0	15.0				新墓地06-04
30	文化060813	18090813	湯岩童子 寛政八辰年二月廿六日／地藏／黙禪童子文 化六巳年八月十三日	39.0	22.5	20.0	10.5				新墓地04-20
31	文化070802	18100802	潤月浄空信士文化七午八月二日／  地藏／智蓮童子文 化元子五月廿七日	59.0	27.0	24.8	19.8	32.5	30.7		新墓地05-12 台座埋 没
32	文化070802	18100802	智大童子／地藏／文化七午年八月二日台座銘宝曆九巳 涼荷童子六月廿二日○宝曆十三葵春光童子未正月七日	32.5	17.2	17.0	10.2	28.0	20.0		新墓地04-16
33	文化081126	18111126	天明七未歲二月初四日花香童女／地藏／文化八年義山 丁真信士未十一月廿六日	43.0	23.5	16.0	10.5	08.0	25.5	22.5	新墓地04-17
34	文政050304	18220304	文政五年三月四日智量童子／  地藏／文政五年三月七日 日智？童女	37.7	20.5	20.3	12.5				新墓地04-26

35	天保031027	18321027	芳岳紹聯好童子／地藏／天保三年辰十月廿七日	52.0	28.5	25.5	22.6	33.0	32.2	新墓地05-11	台座埋 没	
36	天保061009	18351009	葉雲智紅信土／地藏／天保六年十月九日	33.0		17.5	10.5	09.0	45.0	新墓地04-06	6と7共 有の台 後補	
37	天保090229	18380229	遷岳壽喬童子天保九戌二月廿九日／  地藏／止苗童子 天保七申五月廿一日	55.0	26.5	29.0	17.2			新墓地05-13		
38	天保140118	18430118	梅岩智玉童子／  地藏／天保十四年正月十八日	54.5	31.0	27.0	15.0	34.0		新墓地05-14	台座埋 没	
39	弘化030503	18480503	梅香童女／地藏／弘化三年五月三日	33.6		17.5	10.8			新墓地04-07		
40	嘉永010713	18480713	嘉永元申七月十三日／  地藏／慧眼童女	33.4	19.7	15.7	11.4			新墓地04-27		
41	嘉永011116	18481116	嘉永元申霜月十六日／  地藏／砂鏡童女	37.7	22.8	20.0	12.7			新墓地06-03		
42	嘉永020916	18490916	幻泡童子／  地藏／天保十二丑十一月 日／嘉永二 酉正月十三日 妙媛童女／慈雲童女 嘉永二酉九月十 六日	57.0	19.8	27.5	15.7	15.5	35.0	28.0	新墓地04-38	
43	安政030418	18560418	祖倍童子／地藏／安政五 辰四月十八日	52.0	25.5	28.0	18.3			新墓地05-20	台埋没	
44	安政060829	18590829	禪融童子／地藏／安政六未八月廿九日	46.0	25.5	21.5	13.5			新墓地04-41		
45	昭和15408	197908	法原孩児／  地藏／大正七年十一月十八日長男 昭和五十四年八月 飯田勇建之	45.5	31.0	25.0	18.0	22.0	31.8	33.9	新墓地01-02	
46	昭和15502	198002	山本家水子一切之靈／  地藏 昭和五十五年二月吉日 山本善夫建之	49.0	31.0	24.5	19.6	13.8	27.0	28.0	新墓地10-10	
47	昭和15503	198003	自證孩児／  地藏／智禪童女 昭和五十五年三月吉日 飯田俊一建之	49.5	30.3	24.7	17.1	14.2	28.0	27.0	新墓地09-03	
48	昭和15504	198004	地藏尊／地藏／水子靈 昭和五十五年四月 山本雅雄建之	46.0	29.5	23.9	15.8	24.0	37.0	33.5	新墓地06-12	
49			コ智遷童女／地藏／コ政五午年 正月七日	39.0	22.0	21.8	14.5	17.5	23.5	21.5	新墓地04-14	文政5年 あるいは 安政5年
50			(地藏座像か)	40.5	21.2	21.2	10.8				旧墓地01-08	
51			(地藏座像か)	45.0	18.3	21.8	13.2				旧墓地01-10	
52			(地藏座像か)	42.0	22.4	24.2	12.0				旧墓地01-05	
53			(地藏立像)	39.7	25.5	19.0	11.5				旧墓地07-20	
54			(地藏立像)	39.5	24.5	17.3	11.0				旧墓地01-09	
55			(地藏立像)	35.5	20.0	20.5	10.4				旧墓地01-06	

第2節 飯ノ峯畑の民俗

A 概観

飯ノ峯畑は箱作村の枝村である。箱作は、東・西・畑村の三村にわかれる。飯ノ峯畑は東村の管轄下にあり、17世紀後半には、高111石5升8合⁽¹⁾の枝郷であった。

嘉永4年（1851）7月13日、山津波があったと推定され、現在、新墓がある場所よりはるか上部に飯ノ峯畑の集落があり、この時の山津波によって、流され多大な被害を被ったと伝えられている。その後、飯ノ峯畑の集落は、現在の場所に移動している。「畑八軒寺とも九軒」といわれ、飯ノ峯畑の村の規模を示す言葉が残っているが、この山津波の時に犠牲者がでたことは、箱作西にある観音寺所蔵の過去帳の嘉永4年(1851)の項をみると、山本忠治郎一族5人、飯田磯三郎家の内1人と計6人が死亡していることが記されている。現在の飯ノ峯畑は箱作東に属し、昭和61年度12月現在では、戸数10戸、42人の小村であり、中・高年層が多い。

B 生産

箱作は明治7年（1874）の「新村・波有手村・貝掛村・舞村・箱作村・山中新田一村限調帳」⁽²⁾によると、

「土産

米・麦・大豆・菜種・砂糖・西瓜・青石・瓦・松・木薪

牛数

男0

女七十五疋

馬数

男二疋

女0

海船 四拾四艘

五十石以上

内

五十石以上四十四艘

河船0

人力車 弐挺

板車 六十六輛 但、木口成車

砲銃

内

遊銃0 職獵銃 四挺

威銃八挺 飾銃0

産業

男子ハ多ク農業但、農間ハ山柁瓦焼石工ヲ為ス

女子ハ多ク農業但、農間ハ糸操木綿織ヲ為ス

とあり、箱作全体としては、農・漁業が主となる村であり、それに加えて、石工・瓦を産業としていることがしられる。近世において、石材地としていられていたことが『和泉名所図絵』⁽³⁾巻之四、

「名産和泉石（鳥取荘及び下荘箱作村多く出る其色青白にして細密なり。石碑を造るに文字顕然たり。京師及び諸国に出る事多し。近年孝行白といふもの此石を以て作る強き魚物の類此白に入れ則同石の杵を以て春和らげ齒のなき老人に進む味損ぜずして可也。又抹茶白酒等にみな此磨を用ゆる）」

とあり、和泉石は石碑、白に最適であることが記されている。

箱作の枝村である飯ノ峯畑では、農家のほとんどが兼業農家（4軒）であり、米・麦・玉葱等のほか、自給できる程度の野菜を作っている。明治以降、箱作も含む和泉一円は玉葱の産地として有名であり、飯ノ峯畑も同様に、玉葱を栽培し、畑には収穫した玉葱を干す玉葱小屋が作られている。このような農業のほか、昭和30年頃まで、石材地としても、活躍した所であった。現在では兼業農家4軒のほか、養鶏場1軒、あと会社員や自営業で構成されている。

稲作

苗代は5月23、24日頃に行い、田植は6月10～15日の間に行う。池が小さいため、雨が降る翌日に田植を行う。年により、日照りが続き、7月になってしまった時は用水池（こぼたにの池・みのぼの池・七里畑の池）の水を使用し、田植を行う。水は水利組合が管理し、一反に付き、金額が定められている。畑を持っている家は順番制で世話役の総代を勤め、水を管理する。田植が終わると、「どろやすみ」といい、休息日を設ける。この日を「けっけやすみ」ともいい、かつては餅を搗いていたが、今では饅頭などの菓子を食べ、ゆっく

りと骨休みをする。夏期は、一週間に2回程度、草とりを行う。7月になると、現在は絶えてしまったが、「百姓の神さん」と信じられている牛を祀る「牛まつり」を行っていた。(年中行事の項参照)

刈り入れは10月15日～11月中旬にかけて行われる。早米と奥手米により、収穫の時期は異なる。この地域では、刈り入れの際、稲の干し方に特長がみられる。木材を正方形型、またコの字型におき、稲束を干していく。刈り入れが終わると、「とりまつり」が行われる。

なお、飯田庄一氏宅では、「トオミ」と呼ばれる米ぐり(ゴミを取り除くもの)や「トボ」(一舂一斗舂)、「ショイコ」等が今も使用されている。

また、泉州の特産である玉葱は11月はじめから末にかけて植えられ、収穫は5月20～27日頃である。

この近辺の山には、昭和40年頃まで松茸が豊富にあり、松茸刈りに泉佐野からも多くの人が訪れていたという。このほか、珍しいきのこ類もみられ、初茸(ねずみの足跡)も採集できたという。松茸やきのこ類を採集する場合、他人の山からは絶対取らないという約束ごとが暗黙の内に、村人の間に浸透しているという。

石切り

飯ノ峯畑には、石切り場が2ヶ所(ミノバ石切場跡と畑の入口にある石切り場)残っている。石質は水性砂岩であり、かなり良質の石である。現在、石の切り出しは行われていない。昭和30年頃には、この石切り場も盛んであった。飯ノ峯畑で採石される石の用途は、和歌山・妙寺・打田などの紀ノ川沿いの堤防、みかん畑の石垣、海岸の防波堤に用いられた。

山本正義氏は石工になってから、約40年近くになり、畑に住居を構えるようになってから、30年近くになる。かつては20～40人の工夫・石工・土方を雇う親方であった。

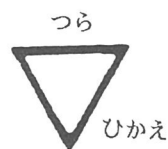
まず、石山の所有権を得ることからはじまる。飯ノ峯畑の石山は個人所有であり、この場合、一年間に年貢を支払い、その権利を得る。現在、石を掘り出すために、クローラという穴掘機を用いるが、昭和30年頃には、手掘で行っていた。この手掘による方法は昭和50年ぐらいまで継続していた。

石を切り出すには、それぞれの役目を果たす人々によって構成されている。まず、山から岩のような石を切り出す人を工夫(コウフ)といい、切り出された石を適当な大きさに切る役の人を石工(イシク)、石を運んだり、雑用をする役を土方(ドカタ)と呼ばれる人々

によって行われる。

工夫は3人で作業を行う。1人が2尺ぐらいの大ききの鑿で切る石に矢をあてる。もう1人がその鑿に玄翁（ゲンノウ・石を砕くときに使う大形の鉄槌）でたたき、石の間に1m以上も深く穴を掘る。このように、穴を掘ることを玄翁ぶりという。この掘方は、石の目の状態により、真直のする場合と、斜めにする場合がある。玄翁ぶりが良い、悪いといわれるのは、良い石材を掘り出すことが出来たかどうかという判断につながっている。鑿と玄翁によってできた隙間に火薬をいれ、発破をかける。この時に、正しく石の目を把握していないと、発破をかけた効果が出て来ない。発破をかけることによって、岩のような種石（タネイシ・大ききは六畳ぐらい）ができる。種石から、5種類の石の大きさに石工によって切られる。

(1)間知石 石垣用に用いられる。間知石は第86図のような形で、つらが1尺5寸また1尺2寸の2種類に切る。1日150個を切ることができる。



第86図 間知石

(2)雑石 石垣用

(3)コッパ 栗石ともいわれ、石垣を組んでいくとき、間知石や雑石の隙間を埋める石。

(4)捨石 間知石よりも大きく、1トンぐらいの大ききの石。主に海岸の防波堤に用いる。

(5)角石 種石の角にあたる石

この他、注文に応じて、石碑も作る。この5種類ある中で間知石と雑石は、一番多く利用される。

このように切り出された石は石切り場から運ばなければならないが、その時に「キンマ」といわれる道具で運ばれる。丸太をはしご状に横に並べ、その上に石を置く。石の下の丸太を左右からころがしながら、2人で引いていく。これは飯ノ峯畑では用いなかったらしい。

生命の危険を伴う石切りを行う工夫たちにとって、自然の驚異により、山の神に対する信仰は自ずと芽ばえていく。毎年、春秋に山の神を祀る「山まつり」を行っていた。石切り場で、神主の祈禱、祓を受ける。この「山まつり」の日、親方は工夫・石工・土方に日当を渡し、1日休暇を与えたという。

C 衣・食・住

衣

農作業用の衣服として、特に決まった服を着用しない。男性は普段着に、農作業用の帽

子をかぶる。雨の時は、蓑をかぶる。女性も作業用の衣服を着用することはないが、昭和30年頃、上着はひっぱりを着、もんぺをはき、手は手甲、足は脚半、わらじを着用していた。防寒具には縋袍を着用している。

食

普通は、午前5時頃に起き、農作業を始める。農繁期になると、朝4時に起床し、2時間ぐらい農作業を行う。7時頃に御飯とみそ汁で朝食をすます。その後、再び農作業をし、10時半に昼食をとる。午後3時半頃、「やっじゃ」といい、休息をとる。夕食は7・8時頃になる。かつては味噌、漬物も自家製であった。

昭和40年頃、飯ノ峯畑は松茸の産地であり、松茸の取れる季節になると、松茸刈りの人々にぎやかであった。松茸のほか、初茸（俗に鼠の足ともいう）などのきのこ類も採集できたという。

住

現在、飯ノ峯畑に古い家はみられない。長男は普通、母屋を継ぎ、次男は分家となる。かつての家屋にはヘツツイ（かまど）が必ず見られ、3つあるカマドの内、一番小さいのは茶釜、中央は御飯用、一番大きいのは牛の飼料を炊くためのミモノ用である。これには、藁を3～5cmぐらいに切ったものや麦を入れて、牛の餌を作る。

D 交通

明治10年（1877）、標柱建設届（4）によると、箱作は、

「箱作村

従堺大小路程表、紀州街道蛸茶屋経、加田道九里三十二町三十五間

当村反別百十壺町四反四畝五歩

戸数二百五十二戸 当区事務所迄五間

人員千二百五十四人

東隣貝掛村迄九町四十五間三尺

西隣山中新田マデ十六町五十七間三尺

南当村総持野山廿四町四十五間

北海岸迄三町三十五間

明治十年一月廿日建之

従是西南和泉国三大区五小区箱作村中央杭迄六町十五間三尺

従是和泉国三大区五小区箱作村中央杭迄十四町三間三尺」

とあり、箱作は貝掛の西に位置し、村の東部を茶屋川が流れている地域にある。その中でも飯ノ峯畑は箱作の本村とは約15分ぐらいの場所にあり、箱作駅にも近く交通の便がよい。農作物を運搬するのに、籠やりヤカーを用いていたので、不便を感じなかったという。

E 社会集団

講組織としては、「とりまつり」に参加する6人で結成されているが、元来は、宮座であったと思われる。(年中行事の項参照)

また、通夜の時、飯ノ峯畑の女性(特に老人)9人は御詠歌を唱和するために、喪家に集まる念仏講がある。

子供会・老人会・婦人会は箱作本村の会に加入している。この飯ノ峯畑の中で、特徴があるとおもわれるのは、男性が34才になると、年番といい、秋祭りの世話を行わなければならないことである。村の行事に関わることにより、社会に対する責任も芽ばえてくるといわれている。(人の一生の項参照)

F 信仰

寺院

貞亨5年(1688)「箱作村差出帳」(5)によると、飯ノ峯畑も含めて、東村に所在した神社が書きあげられている。

〔(上略)〕

一、浄土宗	京都知恩院末寺	宗福寺
一、同 宗	当村宗福寺末寺	発徳寺
一、同 宗	同断	施福寺
一、同 宗	同断	地藏寺
一、浄土宗	同断	月 庵
一、禅 宗	京妙心寺末寺	観音寺
一、同 宗	当村観音寺末寺	阿弥陀寺
一、同 宗	同断	宝仙寺
一、同 宗	同断	来迎寺
一、同 宗	同断	諦観寺
一、貴布弥明神宮	神主	志摩丞

祭礼^{四月朔日}_{九月九日}

但、境内^{長武拾三間ほど}_{横武老間ほど}外ニ山^{高サ七拾間ほど}_{長サ武百八拾間ほど}

台長 <small>長サ十七間 横武間</small>	壺ヶ所
神楽堂 <small>長サ三間 横武間</small>	壺ヶ所
一、天神宮 祭礼 <small>正月廿五日 八月五日</small>	神主 対馬守
但シ、境内 <small>長サ武拾八間ほと 横武拾三間ほと</small> 外 <small>二山 高サ百間ほと 長サ武百八拾間ほと</small>	
神楽堂 <small>長サ三間 横武間</small>	壺ヶ所
一、地神宮 祭礼八月六日	神主 同人
但シ、境内 <small>長サ武拾間 横武間</small>	
一、若宮 但、境内 <small>長三間半 横武間半</small>	神主 志摩丞
石ほこら	
一、えびす 但、境内 <small>長三間 横武間</small>	同人 同人

これによると、17世紀後半、箱作の東村内で、10ヶ寺、3社が存在していたことが知られる。この内、飯ノ峯畑にある寺院・神社についての記載はみられないが、享和3年(1803)「御領分村々仮名附」⁽⁶⁾によると、地藏寺・発徳寺・施福寺の寺院が飯ノ峯畑に現存していたとされている。しかし、19世紀中頃、天保14年(1843)「泉州日根郡寺社覚」⁽⁷⁾によると、

「箱作村「飯ノ峯畑といふ枝村あり、山中新田村といふあり」

禅宗、本寺、京都妙心寺 円通山 観音寺

「泉州三十三所第三十二」

禅宗、本寺、同村観音寺 諦観寺

禅宗、本寺、右同断 阿弥陀寺

禅宗、本寺、右同断 宝仙寺

禅宗、本寺、右同断 観音堂寺 来迎寺

浄土宗、本寺、京都知恩院 医王山 宗福寺

浄土宗、本寺、同村宗福寺 施福寺

浄土宗、本寺、右同断 「飯峯畑」 地藏寺

浄土宗、俗庵、同村庄屋 庄三郎庵」

とある。これによると、19世紀初め、飯ノ峯畑に地藏寺は所在していたことが知られ、発得寺は廃寺となっている様子である。おそらく、この記事によると、飯ノ峯畑には地藏寺のみ存在していたのであろう。この地藏寺も含め、箱作東にある浄土宗宗福寺の末寺であった発得寺、施福寺、地藏寺は明治6年(1873)8月に、各寺で所蔵する什物・土地が売却

され、廃寺となり、宗福寺に包括されている。明治 6年（1873）の折、買却された什物は、以下の通りである⁽⁸⁾。

「宗福寺末

地蔵寺附属什物簿

一、本尊阿弥陀如来像	壺體
一、觀世音菩薩像	壺體
一、大勢至菩薩像	壺體
一、薬師如来像	壺體
一、地蔵菩薩像	壺體
一、善導大師像	壺體
一、円光大師像	壺體
一、真 五具足	壺組
一、木 燈籠	壺対
一、真 五具足	壺組
一、黒 燭	壺ツ
一、木魚	壺ツ
一、磬 但シ壺内	壺具
一、鼓鉦	壺挺
一、喚鐘	壺口
一、罽口	壺口
一、常香盤	壺具
一、賽銭筥	壺ツ
一、三方膳	三膳
一、行燈	壺ツ
一、壁対	壺ツ
一、間中戸棚	三ツ
一、大釜	壺ツ
一、鉄鍋	三ツ
一、日光膳	四膳
一、茶漬茶碗	七ツ

一、猪口	九ツ
一、茶飲茶碗	十一
一、水壺	壺ツ
一、味噌桶	壺ツ
一、桶大小共	三ツ
一、箱火鉢	壺ツ
一、焼物火鉢	式ツ
一、三斗桶	壺ツ
一、食次	二ツ
一、盥	二ツ
一、荷桶	壺荷
一、石水流	壺枚
一、本堂畳	十三畳
一、同雨戸	八枚
一、本堂障子	八枚
一、庫裏畳	拾畳
一、同雨戸	四枚
一、同障子	四枚
一、同襖	四枚

総計

仏像七躰仏器拾二品雑物十九品

畳数廿三畳戸障子襖廿八枚

(中略)

施福寺跡地代金五圓地藏寺跡地代金五十銭」

とあり、地藏寺の跡地はわずか50銭で売却されている。現在、地藏寺の跡地を知ることはできないが、かつて寺屋敷と称される所があり、そこに寺院が二カ寺あったと伝えられている。

なお、飯ノ峯畑には「畑の地藏さん」と呼ばれ、かつて、地藏寺に所蔵していたという伝承をもつ嘉元3年(1305)銘の地藏菩薩坐像(大阪府文化財指定)(仏教美術の項参照)があり、現在、この像は宗福寺に安置されている。伝承では、嘉永4年(1851)に山津波が

あるまでは、飯田家（イト氏）で地藏菩薩をお守りしていたが、この山津波の後、地藏寺の本寺・宗福寺に預けたという。今でも、飯田家では、宗福寺で行われる地藏盆（7月22～23日）には、餅・供物をお供えに訪れている。地藏菩薩像と一緒に「飯峯山地蔵寺御本尊縁起」（卷子 縦 31.9cm、横175.5cm）が宗福寺に残されている（史料篇参照）これは寛政2年（1790）6月、南紀田宮環裏坊白翁居士により、記されたものであり、この中に、「（上略）今に正月九日に造酒をそなへ村中一座して酒宴をなす事也。扱夫 此寺を建し、六月廿三～廿四日に尊像を安置奉り、則寺号を地藏寺となつけり。菩薩の再顕し給ふ古跡（コセキ）今に残りて、此山中にあり。信心の輩（トモガラ）ハ御縁日に此笙の滝の霊水を汲て目をあらへハ、眼病を治し、また、産湯にさせハ、其子痲瘡かるく無病にして命長し、誠に延命地藏薩垂の垂跡といつへし。（下略）」

とあり、この地藏菩薩をまつるために、地藏寺が建立され、寛政2年（1790）頃には、1月9日に村民が集まり、「地藏講」なるまつりが行われていたことも推察できよう。

現在、飯ノ峯畑の住民は、箱作西にある臨済宗妙心寺派に属する観音寺の檀家である。飯ノ峯畑の住民と観音寺との関係は、月まいり・年忌・葬送などの仏事に関わるほか、観音寺で行われる年中行事の内、8月15日の施餓鬼法要には必ず参加する。

観音寺に残る過去帳（延宝年間～大正）によると、飯ノ峯畑には屋号で呼ぶ習わしがあったようである。例えば、飯田家（庄一氏）は市左衛門、山本家（高氏）は半四郎、山本家（常男氏）は長次郎というように、今でも、この屋号を用いている。観音寺の過去帳を見ると、それ以外の屋号を持つ家も多く、飯ノ峯畑にあったことが知られる。「過去帳」から抜出してみると、

「長次郎	延宝七年
市兵衛	貞亨二年
忠兵衛	元禄三年
市左衛門	正徳三年
半四郎	宝暦三年
助治郎	安永四年
佐治郎	安永八年
権八	安永八年
半兵衛	寛政五年

飯田徳太郎「

とある。ここに書き出したのは、屋号のある家で最も古い没年を記すものであり、過去帳の記載は市左衛門母、半四郎弟というような形式で記されている。このような記載方法も、天保6年(1835)以降になると、名字とともに記されるようになる。しかも、このような屋号を使っても、現在でも飯ノ峯畑の人々の間でも通用している。

神社

飯ノ峯畑に神社は1ヶ所であり、字奥の宮にある。通称「奥の宮さん」と呼ばれ、箱作東にある賀茂神社の末社である。従って、飯ノ峯畑の住民は賀茂神社の氏子となる。この「宮さん」で行われるまつりは「とりまつり」(年中行事の項参照)である。賀茂神社で行われる秋まつり(10月10日・11日)に氏子として、飯ノ峯畑の住民は参加する。(年中行事の項参照)

この他、飯田家(イト氏)が祀る「どうろくさん」が飯田家の道路添にある。これは、19世紀後半、飯田イト氏の祖父により病氣治癒・祈禱の為に勧請されたものである。

また、飯田家(イト氏)の仏壇には、在家では見られない仏像があり、他には金銅製の釈迦誕生仏を所蔵している(仏教美術の項参照)。飯田家には古い位牌も残され、その中には、宝永6年(1709)、享保12年(1727)、宝暦10年(1760)、寛政元年(1789)、文化7年(1810)、文政7年(1824)、弘化3年(1846)銘があり、貴重な資料と言えよう。

G 人の一生

産育習俗

出産 戦前は自宅で出産していたが、近年は病院で出産する。自宅で出産していた場合、後産は墓に捨てにいったという。

名づけの祝い 誕生後一週間の内、隣組を招待し、赤飯・鯛などで祝いの膳を出す。その時、生まれた子供の分の膳も用意する。

宮まいり 男子は34日目、女子は33日目に行く。宮まいりに着用する産着は嫁の実家から贈られる。宮まいりは賀茂神社へ姑・嫁の母親・嫁で行くことが多い。身内の者で祝い、隣組や祝いをもらった人々には、紅白の饅頭を配り、その饅頭の箱には、赤白の熨斗紙に命名した子供の名前を記入する。

食い初め 食い初めは生後百日目に俗に「モモカの食い初め」といい、子供に餅や赤飯のほかに必ず蛸をしゃぶらせるという。

幼年・青年・老年

七夕まつり 6才(今は小学1年生)の子供のいる家では、入学祝いを兼ねて、大きな七夕竹を家の戸口にたてる。(年中行事の項参照)

初潮 女の子のいる家では初潮を迎えると、赤飯を炊いて祝う。

年番 34才になると、まつりの世話役になる。賀茂神社のまつりのために、寄付集めをはじめ、まつりにはやぐらを引く。年番をしないと、一人前でないといわれている。

厄年 男は41才が前厄、42才が本厄、43才が後厄という。厄にあたる人は、月見に、自宅の棟をみてはいけないという伝承があり、この日は夜明けから外出をし、夜遅くにならないと帰宅しないという。これを「月見に逃げる」といい、貝掛や尾崎でも行っているという。

女は33才が厄であり、家により赤飯を炊くところもある。

還暦 61才になると、赤の甚平を嫁に行った娘や親と同居していない息子が贈る習わしになっている。

婚姻習俗

婚礼 昭和30年頃まで自宅で行っていた。かつては、婚礼に向う前、花嫁姿となった娘が家を出るとき、今まで使っていた娘の茶碗を土間で割ったという。これは二度と戻ってはいけない意味が含まれている。婚礼の行列は長持を先頭に、嫁・荷物の順で長もち歌を歌いながら婚家へやってくる。嫁が婚家に到着すると、まず、仏壇におまいりをした後、婚礼の行われる座敷に座り、夕方から翌朝の昼過ぎまで、披露宴が行われる。新婚旅行は行かないが、一ヶ月内に遊びに行く。結婚して一週間内に、隣近所で手土産持参で、挨拶にまわる。

葬送習俗

葬式の準備 人が死ぬとその家人は、隣組の組長にまず、知らせに行く。組長は各家に連絡し、その後、全員が集まり、葬式の段取りを決める。観音寺に連絡し、葬式の日、時間を決める。友引にあたる場合は避け、葬式の時間を遅らせる。

神棚には、目かくしのつもりで白紙を遺族以外の人に張ってもらう。これは49日までそのままにしておく。

通夜 湯棺は親族で行う。遺体に白衣・手甲・脚半を身の濃い人で着用させる。白衣は親族で縫うが、結び目を作らない。宗福寺で五重を受けている人は、五重を受けたときにもらう白衣を着る。遺体は北枕にし、胸の上に剃刀を置く。枕元に膳めし（茶碗に御飯を入れ、真ん中に一本箸をたてる）・櫛（一本）・死に水（枕水）・一本線香を置く。通夜は観音寺住職の読経の後、仏講の女性（9人）が御詠歌を唱和する。通夜に訪れる人は櫛の葉で死に水をすくい、遺体の口にあてる。遺体のお守りは隣組で交代で行い、線香の火が

絶えないように気を付ける。

葬式 出棺の前「水うけ」を行う。これは櫛の葉で死に水をとることであり、死んだ人にとって、濃い血縁関係にある人が行う。葬式は観音寺住職が導師となる。家により、7人の僧侶が葬式にたつ場合もあるが、普通は5人（楽人も含む）の僧侶がたつことが多い。昭和30年頃まで、土葬を行っていた。棺は丸棺（座棺）を使用した。その中には、杖、笠をいれ、旅装束の姿にし、死んだ人の大事にしていたものや六文銭を入れる。出棺するときは、玄関からでない。納戸や縁側から出棺する。その際に、茶碗を割り、門口で門火とい、藁を炊く。

葬列 昭和30年頃まで土葬を行っていたが、土葬を行わなくなってから葬列を組まなくなった。従って葬列の順序が明確に知ることはできず、断片的にしか聞き取ることができなかった。墓地は「さんまい」と称され、墓地まで隣組の人が鉦を打っていたらしい。棺を昇くのは、亡くなった人に対して、例えば、娘婿にあたる男性が昇くことになっている。他人は棺にさわってはならないとされている。葬列には、紙で作った花や籠を半分にして、中央に「南無阿弥陀仏」と書いた幡のかわりのようなものや籠、団子（4個の団子を1つの串にさしたものの4本）、蠟燭などをもっていった。葬列のあと、手伝った隣組にお礼として、膳を出す。

年忌 49日の間は、亡者が家のまわりにいるという考えがあり、49日まで線香は絶やさない。今では巻線香を用いる。家により、7日ごとに詠歌を唱和している家もある。49日を過ぎないと、仏壇の中に遺骨を納めない。年忌法要は一回忌は「むかわれ」といい、三・五・七・十三・二十三・三十三・五十回忌まで行う。親の五十回忌まで行うことができるのは、不幸とされている。

墓制 村の人は「畑の墓」といわれる墓地は飯ノ峯畑だけの墓地である。また、この墓地には飯ノ峯畑出身者の墓も含まれている。

墓地には、新墓と古墓があり、現在は新墓を利用している。新墓は昭和59年8月1日の水害の際に、区画整理を行った。土葬は前述のように、昭和30年頃まで行われていた。土葬のことを「オボッチャル」ともいわれている。土葬が行われていたときは、墓掘は隣組で行っていた。約2m近くも掘り、墓掘をしてもらった人には、初七日の時、お礼として招待をし、御馳走をする。土葬した上には、「タマガキ」（竹を組んで作った囲）で周囲を囲む。土葬にして、3～5年後に石塔をたてる。飯ノ峯畑では、一族が同じ墓に納骨する 경우가少なく、ほとんどの場合、個人で立てるので、飯田家の墓は50基もあるという。

納骨 喉仏は四天王寺や高野山に納骨する。

H 年中行事

元旦 元旦の神事ごとは当主が行う。当主は鏡餅を床の間に飾る。餅は12月29日は「クウ」といい、29日には餅をつかない。28・30日につく家が多く、家によっては2斗もつく家があるという。鏡餅は、三宝の上に、半紙を敷き、ウラジロの上におかれる。餅の上に干柿・みかんをのせる。このお飾りは床の間だけでなく、井戸・どうろくさんにも飾る。どうろくさんのお飾りのみ、昆布を用いる。31日の夜、どうろくさんのお飾りを行い、すぐに下げてくる。鏡開きは15日に行う。門松は現在、行っていないが、かつては松のみを用い、15日まで飾っていた。しめ縄は自家で作る。しめ縄は左ぬいにし、25日から用意を始める。しめ縄は家の入口、井戸、車などにつける。かつて牛がいた時は、牛小屋にもかけていた。

雑煮は、丸餅を用い、大根・人参・小芋・豆腐をいれ、白味噌でシラスのだしで作る。初詣は、賀茂神社、石田の波多神社やどうろくさんに詣る。

1月7日 七草粥 行っている家は少ない。

旧正月（小正月） 鏡わり 山本家（健二氏）では小豆粥を作る。餅をつく家もみられる。

大寒・小寒 この時は「揚」を食べるとよいとされている。寒餅をつく。家により、一俵もつく家がある。これは今は行っていない。

2月3日 節分 豆まきを行い、年齢の数だけの豆を食べる。夕食に、鰯を食べ、その頭を柁にさし、戸口にさしておく。

2月13日 どうろくさんのまつり 飯田イト氏が祀り、毎日、おまいりをしているが、この日は山・海の幸を供へる。

3月3日 ひなさん 現在、飯ノ峯畑に女の子は4名のみであるが、かつては初節句の時、嫁の実家の親を招待したこともあったという。

3月18～21日 彼岸 各自墓参りを行う。おはぎを作る家もある。

旧4月8日 甘茶 釈迦誕生の日であり、寺院では灌仏会を行う。ここでは、飯田家（イト氏）宅で甘茶を炊く。

5月5日 節句 この村ではこいのぼりをあげる習慣はない。柏餅やちまきは各家で作ったり、購入したりする。

6月 どろやすみ 6月10日頃、田植のあとの農事休みのことであり、「けっけやすみ」と

もいわれる。田畑に害虫がつかないようにと祈るための一日であったという。この日に餅をついていたこともあったが、今では市販の饅頭を購入する。

7月6日 牛まつり 昭和50年頃まで、藁で牛を作り、まつりを行っていた。この牛は総代の家で作られ、人間が抱きかかえられる位の大きさであったという。

字宮の内にある「奥の宮さん」と呼称される宮さんに牛神が祀られ、そこまで、もうもうと牛が鳴くように真似ながら、歩いていったという。

7月7日 七夕 小学1年生になった子供の家では、戸口に願い事を書いた短冊をぶら下げた笹竹をおく。竹をたてた家では近所の子供を招待することになっている。これは入学の祝いを兼ねた行事となっている。

土用 牛の日 現在、牛を飼っていないが、土用になると、牛を海辺まで連れて行き、海水で洗った。(牛は昭和39年頃まで飼っていた。)

8月14日～15日 盆 迎え火は14日朝、精霊を迎えるために線香を持って道端まででていく。お供えには、スイカ・海・山の幸・素麺などや、花は鶏頭・ビシャコを供える。今年、亡くなった人のある家では、初盆を迎えることになるが、普通よりも、丁寧にお迎えをする。迎え団子(米粉で作った団子)を作る。また、家によりおはぎの所もある。また、初盆の家は近所から供物が届く。近所の人々が集まり、御詠歌を唱和する。14日の朝に、観音寺の住職が棚経に訪れる。15日夜、送り火といい、精霊を迎える日である。飯ノ峯畑で行われる初盆の精霊おくりの行事は、海辺に近いことから、木材を薄く削った経木のようなもので作った舟(やしるともいう)に戒名を書いた紙をいれ、浜に流しに行く。

8月14日～15日 盆おどり 箱作の小学校で行われる。

8月15日 観音寺の施餓鬼 箱作にある観音寺で行われ、飯ノ峯畑の住民もおまいりにいく。

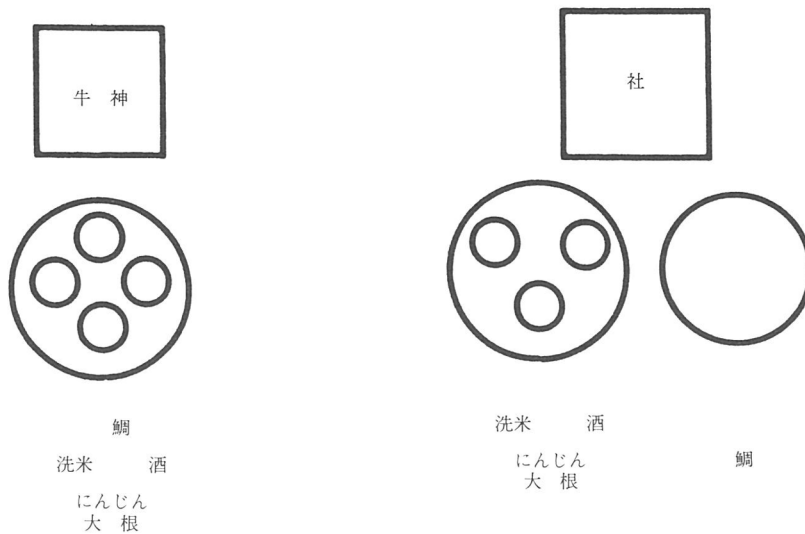
8月16日 藪入り 結婚した人や奉公した人はこの日に実家に帰る日であったが、今は特に藪入りという意識もない。

9月20日 彼岸 萩・枯木・団子(米粉)をお月さんがよくみえる場所に供える。粉の時に芋・蛸を炊いた煮物も供える。

10月10日 秋まつり 賀茂神社のまつりであり、やぐらがでる。各家では寿司を作る。

10月13・14日 豆名月 各家で大豆を神仏に供える。

旧11月3日 とりまつり 昭和61年は12月4日が旧11月3日にあたり、字宮の内に「奥の宮さん」と呼称されるお宮さんで行われる。とりまつりと呼ばれる理由は、とりのまつり



第87図 とりまつり神撰

つまり、終わりのまつりという意味が含まれ、一年の農作業が終了し、収穫祭の意味を持っている。昭和51年頃、宮座を形成していたようであるが、現在では講と呼ばれ、農業を行っている6軒が加入している。6軒は1年交代で当屋（世話役）となる。世話役になると、神撰の用意をし、宮さんの扉を開ける。総代（水守）が1年交代で宮さんの鍵と書類箱を預かる。

まつりは午前10時30分頃から始まり、約30分程度で終了する。神撰には生の鯛・洗米・酒・人参・大根などの海・山の幸が供えられる。（第87図 参照）

宮に向って左側に牛神さんがあり、そこにも神撰は供えられる。本村の賀茂神社から宮司が到着すると、早速に神事は始められる。祝詞のあと、参加者に祓いが行われ、その後参加者全員で膳をかこむ。

このまつりは第2次世界体戦中も行われ、現在のようにまつりの規模が小さくなったのも、その頃からと考えられる。昭和18年（1943）の「飯峯畑神社トリマツリ協議書」（9）によると、

「トリマツリ執行ニ関シ御伺

トリマツリ執行ニツイテハ何百年前ヨリ当部落ニオイテ毎年拾壹月三日（旧曆）営ミ、

此ノ施行ニツイテノ当家ハ山海ノ珍味ヲ集メテ婚礼以上ノ（御）馳走ヲ組ミ立テ、賄イ来リシ大東亞戦争下ニオイテ申ス迄モ無キコト物資ハ統テ配給制度トナリシタメ、鮮魚ノ買求メニ支障ヲ来スハ申スニ及バズ、殊ニ時局柄是迄、成シ来リシヨウナ（御）馳走ヲナスノハ最モ不都合ト小生思考シ、左記ノヨウナ各項ニ減定食ヲシテ将来変ラズ執行シテ神ヲイサメル事が適当ナリト信ジ提案ニ及ビ候也。

協議事項

第一項

神饌用トシテ鮮魚 二疋

但シ少量ノモノ

第二項

氏子賄ニ当リ膳分

一平 野菜物ノ三種

一猪口 菜ノ醤油カケ

一汁 白豆腐

其ノ他 鉢物ハ蕎麦大根

以上ノヤウナ粗食ナレハ其ノ揚ニオイテ召シ上リ、膳分ハ送ラヌ事

以上」

とあり、これを契機として、簡素化が行われていることが知られる。

なお、箱作にある賀茂神社では宮座があり、毎年春（4月1日）・秋（10月11日）に座は開かれていたが、戦時中になくなっている。飯ノ峯畑の近辺の村落で「とりまつり」に類するまつりが行われていないことを考えると、小村でありながら、このようなまつりが継続していることは意味深いといえよう。

なお、宮さんの入口にある石燈籠には、「享保十三年戊申稔正月吉日 邑中」という紀年銘があり、この石燈籠は、元々現在の場所にあったものと信ずれば、この宮は18世紀前半に存在していたと推察される。

1 伝承

○畑八軒寺とも九軒

または畑八軒寺一軒 ともいい、小さな飯ノ峯畑の村を表す言葉として、伝えられている。

○弁慶の足跡

飯ノ峯畑の村の川向に箱作本村の弁天社がある。この弁天社は136mの山の上でありこの弁天社から、飯ノ峯畑の村が一望できる。弁天社から弁慶がひとつとびに飛んで、この岩に足跡が残ったという伝承もある。そこでできた足跡を弁慶の足跡という。

なお、弁天社の石燈籠に「奉奇進辨財天／元文五^庚_□／正月吉日」、鳥居に「亨和元^辛_酉年十二月吉日／辨財天講中」、手洗鉢に「文化六^己_巳年正月吉日／講中」とあり、この弁財天を中心とする講が19世紀の初めにあったことがしられるのである。

○箱作

現在、箱作はハコツクリと呼称されているが、ハコサクとも称されていた。また、箱作ではなく、箱造ともいったという。この字を書く理由として、箱作村は墓石を採掘できる石山がたくさんあり、寝棺を作っていたためといわれる。

○本屋敷

村里から少し離れたところに古墓が道路の右側にある。古墓と反対の左側の藪の中にはいると、かつての集落の跡が見られる。今も、そこには、石垣や茶碗の破片・瓦・手洗鉢などが見られ、かつての住居跡であったことが窺われる。

○城跡

通称城の谷と称され、そこに城があったと伝えられる。

○信長道

飯ノ峯畑のことではないが、波有手村にある楯取神社の通り道は根来に抜ける道であり、ここを信長が通った道という伝承がある。この伝承は、信長が天正 5 (1577) 年に紀州雑賀の本願寺勢力を討つため、泉州路を南下したことによると思われる。

(1)『阪南町史』上巻

(2)『阪南町史』下巻

(3)『日本名所風俗図絵』11 近畿の巻1 角川書店 昭和56年

(4)『阪南町史』下巻

(5)『阪南町史』上巻

(6)『阪南町史』上巻

(7)『和泉志』 和泉文化研究会 昭和32年

(8) 宗福寺所蔵文書

(9)『阪南町史』上巻

第3節 飯ノ峯畑の仏教美術

飯ノ峯畑の仏教美術関係遺品は数少なく次掲の通りである。

- (1)地蔵菩薩座像 木造 像高51.2cm 府指定
- (2)阿弥陀如来座像 木造 像高34.4cm
- (3)誕生仏 銅造 像高11.4cm
- (4)辨才天女像 木造 像高18.0cm

これらの伝来状況は(1)は旧地蔵寺の本尊であった。(2)・(3)は民間に伝来したもので、現在も一室に神仏習合状態で祀られている。(4)は辨才天社に祀られている。以下各項ごとに報告したい。

1 地蔵菩薩座像

像高51.2cmの小像である。形状は右足を上にして結跏趺坐し納衣は地蔵像の通形の如く通肩に着しその右端を右脇にはさんで垂らす。腹部には納衣の下に着した裳の上端を見せるがひもの結び目は作らない。白豪はつくらず胸飾りは墨線で描く。左手は宝珠を持し右手には錫杖を持す。頭光を負い蓮台に坐す。持物および頭光、蓮台は後補である。

材は桧と思われる。構造は頭部は前後二材（耳後で寄せる）で彫眼とし瞳を白地に墨で描く。彩色が所々に残る。頭部全体を三道下で体部にさし首とする。本像の構造でさし首とすることには疑問を生じるが材は同材のようである。

体部は一材で膝前材を寄せ、内部は厚みを残して大きく繰り、背板をあてる。背板には後世の追記と思われる墨書銘（別記）がある。体部にも彩色痕がのこる。裳先は欠失している。

表現は本像はおだやかな表情をもち体軀の把握、衣文線の処理など平安後期の作風を持つ。この作風や構造技法から本像は11世紀～12世紀の制作と考えられる。

さて本像は現在箱作所在宗福寺に安置されているが、もと宗福寺末寺飯ノ峯畑所在地蔵寺の本尊であった。明治6年（1873）地蔵寺が廃寺とされた際移されたと伝えられている。いつから地蔵寺に伝来したかは確証はないけれども、「箱作村 差出帳（貞亨5年・享保6年）には宗福寺末寺地蔵寺として見え、「寺社覚」（天保14年）に「浄土宗、本寺、右同断（同村宗福寺）「飯峯畑」地蔵寺」とみえるので、江戸時代を通じて飯ノ峯畑地蔵寺伝来していたと考えられる。

また本像には縁起（「飯峯山地蔵寺御本尊縁起」寛政2年南紀田宮寛裏坊白翁による）が

附属している。それは古縁起をもとに寛政2年に作成したと記されている。それによれば本像は嘉元3年(1305)沙門覚念が造像し阿弥陀か峯に小堂を建て安置された。その後、いつとは記されていないが大災あり堂とともに焼失してしまった。ところが信心深い山賤(さんせん)が地藏の靈験により発見し村人とともに地藏寺を建立したという。そして地藏の靈験(眼病を直し、子供の痘瘡予防など)を記して縁起は終わる。

これによって江戸時代には病を救い火災を退ける仏として親しく信仰されていた様子を知ることができるが、それ以前の経緯は不明としかいいようがない。ただ縁起前半の造像過程については本像背板内側墨書銘に依ったと思われる。しかしながら墨書銘に記す嘉元3年は本像の制作年代とは考え難く、薬師寺からどこかに移安された時の銘と思われる。それが地藏寺であったとは前述縁起内容では考えていない。地藏寺の建立はさらに後の時期とされている。

以上本像は平安後期造像以後薬師寺の仏像であったが嘉元3年移安され、江戸時代には地藏寺の靈験あらたかな仏像として親しく信仰されていたが、明治初年地藏寺が廃寺となるに依じて本寺宗福寺に移安されたという経過をたどって現在に至っている。

法量	像高	51.2	面奥	<13.3>
(単位cm)	頭長	16.5	胸厚	14.9
	耳張	12.0	腹出	16.5
	面巾	11.0	膝奥	32.2
	肩張	26.2	膝高	8.0
	臂張	31.0		
	膝張	40.8		

「背板内側墨書銘」

薬師寺御佛也

嘉元三年乙巳十二月日

文沙 覚念御房之御時

住僧賢良房

2 阿弥陀如来座像

像高34.4cmの小像。木造・玉眼・漆箱・螺髪は彫りだしとする。納衣は通肩に着し、右足を上にして結跏趺坐し、手は来迎印を結ぶ。白豪・肉髮珠をはめる。反花を持つ蓮台に坐し頭光を負う。江戸時代。

3 誕生仏

総高15.1cm、像高11.4cm。銅造、現状では鍍金の跡が認められず全体に黒光りを呈する。台底まで中型の土が残る。

形状は右手は臂を屈して上にあげ左手は体部に触れずに垂下する。両手とも人差し指をたてる。上半身裸形下半身裳をまとい蓮台上に直立する通形の誕生仏である。頭部は螺髪は彫りださず両脇に切り込みを入れるのみである。顔面は鼻・口を彫りだしまぶたにはふくらみがある。両眉は連なり連眉とし、顎の線を入れる。顔面は右頬に失敗があり蠟が流れ左側は童顔である。

腹部は前にせり出し裳は前面二重に垂らし右でとじる。腹部にはくびれを入れるが仕上がりに失敗がある。

両脇下などは仕上げを施さず、背面は像も蓮台も扁平としいわゆる千体仏小像と同様に正面観のみとし他は省略した造型である。



第88図 誕生仏（天理市小田中）

以上のように本像は造像の細部に失敗があり、造型には省略がみられる。江戸時代の制作と思われる。

本像の類例遺例を二例調査し得たのであわせて紹介しておきたい。

(イ) 天理市小田中像（第88図）

小田中区有観音堂に伝来。総高10.7cm。像高8.0cm。(3)像よりやや小形であるが、像容は全く同様であって同一工房の作と思われる。

(ロ) 御所市橋本院像（第89図）

橋本院は高野山真言宗寺院である。本堂以外に大師堂がありそこに伝来した。大師堂は橋本院では先祖供養の機能を持ち、

民間との関わりが深い堂である。

像は現状上下二つに割れているが総高15.0cm、像高11.4cmで(3)像と全く同大である。また像容も前記の特長すべて備えており、本像がある時期量産されたのではないかと思われる。

(2)(3)はともに民間の宗教者に伝来した。又、小田中像も民間伝来であることを合わせ考えると、民間での花まつりの始行に本像は新たな視点を提供するものとなる。

4 辨才天女像(第90図)

総高40.0cm、像高18.0cmの小像である。木造・玉眼・彩色像。地元では箱作辨才天と呼び山上の祠に伝来。祠前の石灯籠は元文五年(1740)銘、石造鳥居には「亨和辛酉十二月吉日」「辨才天講中」(1801)とあり、手洗鉢には「文化六巳巳年 正月吉日」とある。江戸時代を通じて信仰されていたと知られる。



第89図 誕生仏(御所市橋本)



第90図 辨才天女像

大阪府泉南郡阪南町小字図索引

よみ	小 字 名	番号	地図区分	いけのうち	池ノ内	B-1
あ				いけのうち	池ノ内	D-1
あかがけ	赤掛		A-2	いけのかみ	池ノ上	B-1
あかぎし	赤岸		B-1	いけのかわ	池ノ川	C-1
あしたば	足田場	302	C-2	いけのしも	池ノ下	64 B-1
あしたば	足タバ	303	C-2	いけのしり	池ノ尻	225 D-1
あしたば	足田場	304	C-2	いけのしり	池ノ尻	226 D-1
あしたば	足タバ		C-2	いけのしり	池ノ尻	228 D-1
あしたば	足ダバ	321	D-3	いけもりいけ	池森池	210 D-1
あしたま	アシタマ		C-2	いご	井ゴ	D-2
あぜまち	畦町	279	D-1	いご	イゴ	D-2
あたごやま	愛宕山		E-1	いしくろ	石九呂	344 D-1
あまぶち	尼ブチ	281	D-1	いしたに	石谷	A-2
あまぜき	尼関	280	D-1	いしたに	石谷	A-2
あやべ	綾部		D-1	いしなはた	石名畑	A-1
い				いしばし	石橋	C-1
いえした	家下	187	D-1	いしぶろ	石風呂	D-1
いけおんな	池女		C-1	いせたにやま	伊勢谷山	D-1
いけじり	池尻		B-1	いちのたに	一之谷	E-1
いけたに	池谷	204	D-1	いちのたにみなみは	一之谷南原	E-1
いけたに	池谷	207	D-2	ら		
いけたに	池谷	339	E-2	いちほ	イチホ	A-1
いけたに	池谷		D-2	いっぼんまつ	一本松	D-3
いけたに	池谷		E-2	いなやま	稲山	D-3
いけたにぐち	池谷口	337	E-2	いねまる	稲丸	D-2
いけたにぐち	池谷口	338	E-2	いねまる	稲丸	D-3
いけたにぐち	池谷口		C-2	いのさか	井ノ坂	10 A-1
いけたにぐち	池谷口		D-2	いのさか	井ノ坂	A-1
いけづめ	池詰	242	D-1	いのしり	猪ノ尻	195 D-1
いけづめ	池詰	245	D-1	いのしり	猪尻	196 D-1
いけのうち	池ノ内	42	B-1	いのもと	井ノ元	194 D-1
いけのうち	池ノ内	174	D-1	いのもとまえ	井ノ元前	192 D-1
いけのうち	池ノ内		B-1	いまいけ	今池	B-1

いまいけのかみ	今池ノ上		C-1	おおうめだ	大梅田	2	A-2
いまいけのしも	今池ノ下		B-1	おおかわち	大河内		A-3
いまいけにし	今池西	62	B-1	おおかわちにしはら	大河内西原		A-4
いまいけのにし	今池ノ西	61	B-1	おおさかやま	大阪山		E-2
いまいけのひがし	今池ノ東	81	C-1	おおたに	大谷	341	E-1
いまいけひがし	今池東		C-1	おおたに	大谷		E-1
いもがさか	芋ヶ阪		E-2	おおたに	大谷		E-1
いもがさか	芋ヶ阪		E-2	おおはたけ	大畑ヶ	147	C-1
いもがさか	イモガサカ		E-2	おおまつした	大松下	235	D-1
いやだに	井屋谷		A-3	おおみなど	大湊	168	D-1
いわせちよう	岩瀬町		A-2	おおみなど	大湊		C-1
いわはし	岩端		D-2	おおゆくち	大湯口	51	B-2
いわばな	岩バナ	305	C-2	おおゆのくち	大湯ノ口	50	B-2
いわばな	岩バナ	308	C-2	おおゆのくち	大湯ノ口	53	B-2
いわばな	岩バナ	309	B-2	おかざき	岡崎		B-2
う				おかやま	岡山		D-3
うこべ	ウコベ	209	D-1	おくいけたに	奥池谷		C-2
うこべ	ウコベ	221	D-1	おくいけたに	奥池谷		C-2
うこべ	ウコベ		D-1	おくいけたに	奥池谷		C-2
うこべいけじり	ウコベ池尻	232	D-1	おくいけたに	奥池谷		D-2
うしがみやま	牛神山	100	C-1	おくいけたにいけぞ	奥池谷池添		D-2
うしがみいけのしも	丑神池ノ下	102	C-1	え			
うしがみやまのした	丑神山ノ下	101	C-1	おくのた	奥ノ田	330	D-2
うしやま	丑山	99	C-1	おくのた	奥ノ田		E-3
うちはた	内畑	34	B-1	おくやまだ	奥山田	45	B-2
うちはた	内畑		C-1	おこべ	オコベ	213	D-1
うちはたのしらかべ	内畑ノ白壁	85	C-1	おはら	小原	203	D-1
うのくち	兎ノ口	297	D-2	おはら	小原	211	D-1
うのくち	兎ノ口		D-1	おはら	小原	215	D-1
うりかいと	瓜垣外	250	D-1	おはら	小原	345	D-1
え				おはら	小原		D-1
えびすだ	戎田	185	D-1	おはら	小原		D-1
お				おはらあまみずはた	小原天水畑	218	D-1
おおうねまち	大畝町		A-1	おはらいけひがし	小原池東	230	D-1
おおうねまち	大畝町		D-1	おはらかわしも	小原川下	220	D-1

おはらはたけ	小原畑	219	D-1	かねつきめん	鐘突免	239	D-1
おはらひがしたに	小原東谷	208	D-1	かねつきめん	鐘突免		D-1
おはらひがしたに	小原東谷	216	D-1	かへいやしき	嘉平屋シキ	107	C-1
おはらひがしたに	小原東谷	217	D-1	かべのこ	カベノコ		B-1
おはらひがしたに	小原東谷		D-1	かべのこ	カベノコ		B-1
おはらやまみなど	小原山湊	214	D-1	かべあな	壁穴		A-2
おりたて	折立		C-1	がま	ガマ	74	C-1
おもてだに	表谷		A-4	がま	蒲	75	C-1
か				がま	蒲		C-1
かいと	垣外	317	C-2	がま	ガマ		C-1
かいと	垣外	320	D-3	かまいけ	鎌池		B-2
かいと	垣外		D-2	かまだ	カマダ	48	B-1
かいと	垣外		D-3	がまたに	蒲谷		E-2
かいとだ	垣外田		D-1	がまたにぐち	蒲谷口	331	E-2
かうべやたに	カウベヤ谷	316	D-2	がまたにぐち	ガマ谷口	336	E-2
かぎた	鍵田		D-1	がまたにぐち	蒲谷口		E-2
かきたに	柿谷	282	D-1	かまとぎ	カマトギ		C-2
かきのたに	柿ノ谷	166	D-1	かみのはた	上ノ畑	146	C-1
かきのたに	柿ノ谷	283	D-2	かみのやま	上ノ山	71	C-1
かきのたに	柿ノ谷	286	D-2	かみのやま	上ノ山	120	C-1
かきのたに	柿ノ谷	293	D-2	かみのやま	上ノ山	122	C-1
かきのたに	柿ノ谷		D-2	かみのやまがま	上ノ山ガマ	72	C-1
かきのたにいけじり	柿谷池尻	288	D-2	かみのやまはた	上ノ山畑	116	C-1
かきのたにおく	柿谷奥	292	D-2	かもみやいけ	カモ宮池	13	A-1
かきのたにおく	柿ノ谷奥	298	D-2	かもみやいけ	加茂宮池		A-1
かきのたにくち	柿ノ谷口	287	D-2	からすけ	カラスケ		A-2
かきはた	柿畑	104	C-1	かわかみ	川上		A-1
かくとうでん	楽頭田	11	A-1	かわかみ	川上		
かさまつ	笠松		C-1	かわた	鞆田		D-1
かさまつけ	笠松家	141	C-1	かわばた	川端	24	B-1
かすいけ	粕池	28	B-2	かわばた	川端		A-1
かすいけ	粕池		B-2	かわばた	川バタ		B-1
かたおか	片岡	30	B-3	かんのんだに	観音谷		E-1
かたおか	片岡	63	B-1	き			
かたおか	片岡		B-3	きたはたけ	北畑ケ	78	C-1

きたはたけ	北畑ヶ	79	C-1	ごげやま	後家山		D-2
きたはたけくろうへ	北畑九良平	77	C-1	こしなかた	越中田		C-2
いぶん	分			こしのたに	越ノ谷		C-2
きちぎえもんしも	吉左エ門下	113	C-1	こしろべ	小白部	261	D-1
きつねだに	狐谷		E-1	こすぎたに	小杉谷		E-3
きつねだにぐち	狐谷口	349	E-1	こすぎたに	小杉谷		E-3
きつねづか	狐塚	137	C-1	ごてんやま	御殿山		E-1
きなかいと	キナカイト	83	C-1	ごぼうだに	御坊谷		D-2
きなかいと	キナ垣外		C-1	こみなと	小湊	6	A-1
きわたに	貴和谷		A-3	こみなと	小港	66	C-1
きわたに	貴和谷		A-4	こみなと	小港	69	C-1
きわたに	キワ谷		B-3	こみなと	小港		C-1
く				こみなと	小湊		C-1
くだりまつ	下り松		A-1	こみなとはまくら	小湊濱蔵	70	C-1
くちいけたに	口池谷		C-2	こゆくち	小湯口	44	B-1
くほんやしき	九本屋敷	165	D-1	こゆくち	小湯口		B-1
くらがり	暗ガリ	289	D-2	こゆのかみ	小湯ノ上	46	B-2
くらがり	クラガリ	291	D-2	こゆのかみ	小湯ノ上	47	B-1
くりばやし	栗林		D-2	こゆのくち	小湯ノ口	43	B-1
くりまち	クリ町		B-2	こうごうじ	金剛寺		D-1
くるまたに	車谷		E-3	こうごうじ	金剛寺		D-2
け				ごんさんいけ	権三池		A-2
けんちば	ケンチバ		B-2	さ			
こ				さかいめ	境目	96	C-1
こうのす	鴻ノ巢	238	D-1	さかくぼ	坂久保	278	D-1
こうのす	鴻ノ巢		D-1	さかのうえ	坂ノ上		D-1
こうのす	鴻ノ巢		D-1	さくらたに	櫻谷	65	B-1
こうのす	鴻ノ巢		D-1	さくらたに	櫻谷		A-2
こうのす	鴻ノ巢		D-1	ささおだに	笹尾谷		C-4
こうのたに	鴻ノ谷		A-2	さだきちやしき	定吉屋敷	197	D-1
こうみょうはら	光明原	328	D-3	さんさかかみ	三坂上	329	D-4
こかばな	コカバナ	52	B-2	さんさかぐち	三坂口		D-4
こかばな	コカバナ		B-2	さんしょうごごう	三升五合		E-1
こかばな	コカバナ		B-2	さんしょうごごう	三升五合		E-3
こかばな	コカバナ		B-2	さんのたに	三之谷		E-1

さんのつくり	三ノ作	169	D-1	しろのたに	城ノ谷	314	D-2
し				しろのたに	城ノ谷		C-3
じごくたに	地獄谷		C-1	しろのたに	城ノ谷		D-3
じぞうあと	地藏跡	312	C-2	しろはげ	白ハケ	118	C-1
じぞうつめ	地藏詰		A-1	しろはげ	白ハゲ	132	D-1
じぞうめん	地藏免	274	D-1	しろはげはた	白ハゲ畑	126	C-1
しちまち	七町		D-1	しろはげはた	白ハゲ畑	133	C-1
しま	鳶	178	D-1	しろはげはた	白ハケ畑		C-1
しま	嶋		D-1	しろべだ	白部田	258	D-1
しまのもと	島ノ本		A-2	しろやま	城山		C-1
しまはた	鳶畑	183	D-1	しんいけのかみ	新池ノ上	127	C-1
しまはた	島畑		D-1	しんいけのかみ	新池ノ上	130	D-1
しみず	清水		C-4	しんいけのしり	新池ノ尻		D-1
じみた	ジミ田	175	D-1	しんぞういけ	新造池		B-2
じみた	ジミ田	176	D-1	しんたに	新谷		B-3
しもはら	下原	206	D-1	しんたば	新田場	301	C-2
しもじま	下島	160	C-1	しんでんやま	新田山		C-2
しもじま	下島	161	D-1	しんど	新戸	3	A-2
しもじま	下嶋		D-1	しんど	新戸		A-2
しもゆのくち	下湯口	285	D-2	す			
しゃかどう	釈迦堂	23	A-2	すがま	スガマ		D-3
しゃかぼう	釈迦坊		C-1	すがま	スガマ		D-3
しょうこ	小戸		A-1	すぎおたに	杉尾谷		E-3
しょうここうじ	小戸小路		A-1	すぎおたに	杉尾谷		E-3
じょうのたに	丈ノ谷		B-3	すぎのたに	杉ノ谷	333	E-3
じょうのたに	丈ノ谷		C-4	すぎのたに	杉ノ谷		E-3
しょうぶだに	菖蒲谷	340	D-1	すぎのたに	杉ノ谷		E-3
しょうぶだに	菖蒲谷		E-1	すじちがいみち	筋違道	180	D-1
じろうさく	治郎作	252	D-1	すじちがいみち	筋違道		D-1
しろうたろう	四郎太郎		E-2	すべのたに	スベノ谷		B-3
しろうたろう	四郎太郎		E-2	すべのたに	スベノ谷		B-3
しろうたろうこいけ	四郎太郎小	164	D-1	すりこ	スリコ	103	C-1
だに	池谷			すりこたに	スリコ谷		C-1
しろうたろうこいけ	四郎太郎小		E-2	せ			
だに	池谷			せりかけば	芹掛場		C-1

せりかけば	セリカケ場		C-2	たちばなたにはら	橘谷口東原	276	D-1
せんえもんやしき	仙右エ門屋	114	C-1	たていし	立石		E-1
	舗			たていし	立石		E-1
そ				たにがわ	谷川		B-3
そうご	ソウゴ		C-1	たにがわ	谷川		B-3
そうない	宗内		D-1	たにがわ	谷川		B-4
そこ	ソコ	76	C-1	たにがわぐち	谷川口		B-3
た				たにがわぐち	谷川口		B-4
たかお	高尾	27	B-2	たにだ	谷田		B-1
たかお	高尾		B-2	たにら	タニラ	57	B-1
たかはん	高畔		D-1	たにら	タニラ	59	B-1
たかはん	高畔		D-1	たにら	タニラ	60	B-1
たきたに	瀧谷		E-3	たまくぼ	タマクボ	243	D-1
たきのたに	滝ノ谷	68	C-1	ち			
たきのたに	滝ノ谷	163	D-1	ちゃきはら	茶木原	159	C-1
たきのたに	滝ノ谷	268	D-1	ちゃのきはら	茶ノ木原		C-1
たきのはた	瀧端	260	D-1	ちゃばたけ	茶畑	300	D-2
たきのはた	瀧ノ端	264	D-1	ちゃやかわ	茶ヤ川		B-1
たきのはた	瀧端	265	D-1	ちゃやかわ	茶屋川		B-1
たきのはた	瀧ノ端	270	D-1	ちゃやむかい	茶屋向イ	186	D-1
たきのはた	瀧端	272	D-1	ちょうじろうたに	長治郎谷	328	C-2
たきのふち	瀧ノ淵	269	D-1	ちょうろがの	中路ヶ埜	54	C-2
たきのふち	瀧ノ淵		D-1	ちょんがの	チョンガノ	55	C-2
たけのはな	竹ノハナ	319	D-2	つ			
たけのはな	竹ノハナ		D-3	つかたにぐち	塚谷口		D-1
たけはな	竹鼻		A-1	つかのもと	塚ノ本		D-1
たたら	タ、ラ	56	B-1	つくりみち	作り道	84	C-1
たたら	タ、ラ	58	B-1	つくりみち	作り道		D-2
たちばなたに	橘谷		D-1	つじどう	辻堂	315	C-2
たちばなたに	橘谷		E-1	つのだ	角田	35	B-1
たちばなたに	橘谷		E-1	つのだ	角田	37	B-1
たちばなたに	橘谷		E-1	つのだ	角田	38	B-1
たちばなたに	橘谷奥		E-1	つのだ	角田	154	C-1
たちばなたに	橘谷口		D-1	て			
				でぐち	出口	20	A-1

でぐち	出口		A-1	とうろまつ	トウロ松		B-1
でぐち	出口		A-1	とゆだ	戸湯田		B-1
でぐち	出口		A-1	とりはた	鳥畑		B-4
てらい	寺井		D-2	とろ	トロ		B-1
てらさか	寺坂	112	C-1	な			
てらさかはた	寺坂畑	109	C-1	なかじま	中島	80	C-1
てらさかはた	寺坂畑	111	C-1	なかじま	中巖		C-1
てらした	寺下	110	C-1	なかすじ	中筋		A-1
てらしたはた	寺下畑	115	C-1	なかすじ	中筋		A-2
てらのかいと	寺ノ垣外		A-1	ながた	長田	249	D-1
てらのしも	寺ノ下	123	C-1	ながた	長田	251	D-1
てらのまえ	寺ノ前	18	A-1	ながたひがし	長田東	248	D-1
てらのまえ	寺ノ前		A-1	なかつか	中ツカ		C-2
てらのまえ	寺ノ前		B-1	なかのこわか	中ノ粉川		B-2
てらはた	寺畑	119	C-1	ながはた	長畑		C-1
てらはた	寺畑		C-1	なかやまだ	中山田		B-2
てらもんまえ	寺門前	197	D-1	なしこやま	梨子山	231	D-1
てんじょうだに	天井谷		C-1	なしこやま	梨子山	233	D-1
てんじん	天神		C-1	なしこやま	梨子山	234	E-1
てんじんうら	天神裏		B-1	なしこやま	梨子山	236	E-1
てんじんひがし	天神東		C-1	なしこやま	梨子山	237	E-1
てんじんまえ	天神前		B-1	なべぞこ	鍋底		E-2
でんべい	傳平		C-1	なわしろ	苗代	5	A-1
と				に			
とうのかみ	塔ノ上	15	A-2	にしいで	西出	86	C-1
とうのかみ	塔ノ上	16	A-2	にしいで	西出		C-1
とうのかみ	塔ノ上		A-2	にしいで	西出		C-1
どうのかみ	堂ノ上		A-1	にしいで	西出		C-1
どうのかみ	堂ノ上		A-1	にしいではたけ	西出畑		C-1
どうのかみ	堂ノ上		D-2	にしいではたけ	西出畑ケ		C-1
どうのたに	堂ノ谷		D-2	にしのかいと	西ノ垣外	7	A-1
どうのやま	堂ノ山	299	D-2	にしのかいと	西ノ垣外		A-1
どうのやま	堂ノ山		C-1	にしのたに	西之谷		E-1
とかたに	トカ谷		D-4	にしのたにぐち	西之谷口		E-1
とがたに	トガ谷		D-4	にのたに	二之谷		E-1

ね				はなおりにし	花折西	223	D-1
ねんぶつこう	念佛講		E-1	はま	濱		A-1
の				はまきし	濱岸	8	A-1
のぞえ	野添	229	D-1	はまきし	濱岸	17	A-1
のぞえ	野添		D-1	はまきし	濱岸	36	B-1
は				はまきし	濱岸		B-1
はいのぼり	這上り	256	D-1	はまはた	濱端		A-1
はいのぼり	這上り	263	D-1	はやかり	早刈	255	D-1
はいのぼり	這上り	263	D-1	はやかりふかだ	早刈深田	264	D-1
はさま	ハサマ		C-1	はやしぞえ	林添		B-1
はざま	狭間	149	C-1	はらいけのしり	原池ノ尻	227	D-1
はざま	狭間	153	C-1	はらいけのしり	原池ノ尻	241	D-1
はざま	狭間		C-1	はらいけのにし	原池ノ西	244	D-1
はざまだに	狭間谷		E-1	はらいで	原出	205	D-1
はざまやま	間山		B-2	はらいで	原出		C-1
はしたに	ハシ谷		A-3	はらだ	原田		D-1
はしづめ	ハシヅメ	32	B-1	はらと	原ト	277	D-1
はしづめ	橋詰		A-1	はらと	原ト		D-1
はたうら	畑浦	151	C-1	はらのいけ	原ノ池		D-1
はたうら	畑浦	158	C-1	はらのいけにし	原ノ池西	246	D-1
はたけうら	畑ヶ浦	142	C-1	はんざき	半崎	167	D-1
はたけうら	畑ヶ浦	152	C-1	はんざき	半崎	171	D-1
はたけうら	畑ヶ浦	157	C-1	はんざき	半崎	177	D-1
はたけうら	畑ヶ浦		C-1	はんざきたかだ	半崎高田	170	D-1
はたけうらたくち	畑ヶ浦宅地	155	C-1	はんざきひがし	半崎東	172	D-1
はただ	畑田		D-1	はんしろうやしき	半四郎屋敷	144	C-1
はちくら	八蔵	156	C-1	ひ			
はちごろう	八五郎	162	C-1	ひがしおおみなと	東大湊		D-1
はつめ	初目		A-2	ひがしはざま	東狭間	150	C-1
はつめ	初目		B-2	ひがしほり	東堀	201	D-1
はつめやま	初目山		B-2	ひききたに	引木谷	67	C-1
はなおり	花折		D-1	ひききたに	引木谷		E-3
はなおり	花折		E-1	ひくお	低尾		C-3
はなおりとおりした	花折通り下	202	D-1	ひくおぐち	低尾口		C-3
はなおりにし	花折西	222	D-1	ひくおぐち	低尾口		C-3

ひくおぐち	ヒクヲ口		C-3	ふだばにし	札幌西	191	D-1
ひさほり	久堀	82	C-1	ふだばひがし	札幌東	190	D-1
ひさほり	久堀		B-2	ふちだ	フチダ	33	B-1
ひさほり	久堀		C-1	ふなさか	船阪		E-2
ひさほりたに	久堀谷		C-1	ふのだ	フノ田		B-2
ひとつやぶ	一ツ藪	148	C-1	ふのだ	フノダ		B-2
ひのきだに	桧谷		A-4	ふのだ	フノダ		B-2
ひめだ	姫田		A-1	ふるもり	古森	49	B-2
ひらたに	平谷		E-1	ふるもり	古森		B-2
ひらたに	平谷		E-1	へ			
ひろた	ヒロタ	307	C-2	へい	閉		D-1
ひろた	ヒロタ		C-2	へいかわ	閉川	134	D-1
ひろの	廣ノ	29	B-2	へいぞうた	平造田	257	D-1
ひろの	ヒロノ		B-1	へかた	ヘカタ	253	D-1
ひろの	ヒロノ		B-1	ほ			
ひろはた	廣畑		D-4	ほそたに	細谷		B-4
ふ				ほとけやたに	佛屋谷	31	B-3
ふかいけ	深池	295	C-2	ほとけやたに	佛屋谷		A-3
ふかいけのかみ	深池ノ上	105	C-1	ほんなわしろ	本苗代	259	D-1
ふかいけのかみ	深池ノ上	296	C-2	ま			
ふかいけのじり	深池ノ尻	294	C-1	まいお	舞尾	207	D-1
ふかだ	深田		D-1	まいのかみ	舞ノ上	247	D-1
ふかやぶ	深藪	267	D-1	まいのかみ	舞ノ上		D-1
ふかやぶ	深藪		D-1	まえいで	前出		A-1
ふくつくり	福作		C-1	まえだ	前田		B-1
ふじたに	藤谷		C-1	まえの	前ノ		B-2
ふじたに	藤谷		C-1	まえやま	前山		C-2
ふじのたに	藤ノ谷	91	C-1	ますだ	桝田	199	D-1
ふじのたに	藤ノ谷	92	C-1	まつね	松根	1	A-1
ふじのたに	藤ノ谷	106	C-1	まつのたに	松ノ谷		E-3
ふたかわ	双川		B-1	まつもと	松本		A-2
ふだのつじ	札ノ辻	145	C-1	まとば	的バ	325	D-3
ふだば	札幌	19	B-1	まとば	的場		B-1
ふだば	札幌	188	D-1	まとば	的場		C-1
ふだばしも	札幌下	189	D-1	まとば	的場		D-3

まるた	丸田	224	D-1	む			
まんがんじけいだい	万願寺境内	121	C-1	むかいの	向ノ	73	C-1
み				むかいの	迎ノ	87	C-1
みさおまち	操町		C-2	むかいの	迎ノ	88	C-1
みぞお	溝尾	254	D-1	むかいの	向ノ	89	C-1
みぞのお	溝ノ尾		D-1	むかいの	向ノ	95	C-1
みぞばた	溝端	40	B-1	むかいの	向ヒノ	97	C-1
みぞばた	溝端		B-1	むかいの	向ノ		C-1
みだい	末代	275	D-1	むかいの	向ノ		C-1
みちのうえ	道ノ上		A-2	むかいの	迎ノ		C-1
みちばた	道端	4	A-2	むかいの	向ヒノ		C-1
みちばた	道端		A-2	むかいの	向ヒノ		C-1
みちばた	道端		B-1	むかいのいけがみ	向ヒノ池上	94	C-1
みなと	湊	9	A-1	むかいおく	向ヒ奥	98	C-1
みなと	湊		A-1	むかいのおく	向ヒノ奥	90	C-1
みなみはた	南畑	108	C-1	むかいのおく	向ヒノ奥		C-1
みのつくり	美ノ作	173	D-1	むかいのおく	向ヒノ奥		C-1
みのば	ミノバ	322	D-3	むかいのいけじり	向ヒノ池尻	93	C-1
みのば	ミノバ	323	D-3	むかいのつじ	向ノ辻	284	D-2
みのば	ミノバ		B-1	むかいのつじ	向ノ辻		D-1
みのば	ミノバ		C-4	むかいのつじ	向ノ辻		D-2
みのばやま	ミノバ山		C-4	むくのたに	棕之谷		E-1
みやのうえ	宮ノ上	12	A-1	むくのたにぐちひが	棕之谷口東	342	E-1
みやのうえ	宮ノ上	14	A-2	しはら	原		
みやのうち	宮ノ内		D-3	も			
みやのした	宮ノ下		A-1	もとはたやま	元畑山	326	D-3
みやのにし	宮ノ西		A-1	もとやしき	元屋敷		C-1
みやのひがし	宮ノ東		A-2	ももきぐち	桃木口	306	C-2
みやのもと	宮ノ本	21	A-1	ももきたに	桃木谷	310	C-2
みやのむかい	宮ノ向ヒ	262	D-1	ももきたに	桃木谷	311	C-3
みやのむかい	宮ノ向	263	D-1	ももきたに	桃木谷		C-3
みやのむかい	宮ノ向	265	D-1	ももきたにぐち	桃木谷口		C-2
みやもと	宮本	135	D-1	ももきたにやま	桃木谷山	324	C-3
みやもと	宮本	136	D-1	もりいけ	森池	212	D-1
みやもと	宮本	290	D-2	もりした	森下		B-1

もりにし	森西		B-1	やまのたに	山之谷		E-1
もりひがし	森東	39	B-1	ゆ			
もりひがし	森東		B-1	ゆうえだ	湯上田	271	D-1
もろみちたに	師道谷	334	E-2	ゆうえだ	湯上田	273	D-1
もろみちたに	師道谷	335	E-2	ゆたに	湯谷	125	C-1
や				ゆたに	湯谷		D-1
やくし	薬師		A-2	ゆのくち	湯ノ口		D-3
やくしのしも	薬師ノ下	25	A-2	ゆのたに	湯ノ谷	26	A-2
やくしみち	薬師道		C-1	ゆのたに	湯ノ谷	128	C-1
やくしめん	薬師免	266	D-1	ゆのたに	湯ノ谷	129	C-1
やすみば	休場		E-3	ゆのたに	湯ノ谷	131	D-1
やなぎだ	柳田		D-1	ゆのたに	湯ノ谷		D-1
やぶのうち	藪ノ内	327	D-3	よ			
やぶのたに	藪ノ谷		D-1	よこみち	横道	41	B-1
やまざき	山崎		D-1	わ			
やまのい	山ノ井		C-1	わたがせ	渡ヶ瀬	179	D-1
やまのおか	山ノ岡	124	C-1	わたがせ	渡ヶ瀬	182	D-1
やまのおか	山ノ岡		C-1	わたがせ	渡ヶ瀬	200	D-1
やまのおかあまみず	山ノ岡天水	117	C-1	わたりせ	渡り瀬	184	D-1
ばたけ	畑			わたりせ	渡り瀬	198	D-1
やまのおかぜんきち	山ノ岡善吉	139	C-1	わたりせ	渡り瀬		D-1
たくきち	宅吉			を			
やまのおかはんしろ	山ノ岡半四	138	C-1	をいだ	ライ田		D-1
うほ	郎舗			をいだ	ライ田	181	D-1

檀中惣代

畑組頭

長治郎

庄屋

弥助

熊取村向寄

取締役

茂兵衛

嘉永五年

六月

平七

次助

年行司

清七

熊取村取締役

茂兵衛殿

前書之通大工共江申付候然ル上者たとへ何方如何

様六ツ敷儀出来候共其元江少御難儀掛

申間敷候為後日依而奥印如件

箱作村地藏寺無住二而

檀中惣代

畑組頭

長治郎

庄屋

弥助

乍恐願書

土屋采女正殿御領分泉州日根郡箱作村

御役所

中井小膳様

庫裏

梁間三間

桁行四間半

表ひさし四尺



本堂

梁間三間

四面

四方心間

ひさし



右地藏寺本堂并庫裏屋根瓦葺二而有来候処昨亥年

洪水二不残流失仕候間此度在来候通再建仕度

段村方へ堺御奉行所并御地頭

土屋采女正殿江願上候処作事仕候様御聞濟被成候付

松杉之雜木相用ひ再建之細工仕度候間何卒御聞

濟被成下候ハ、難有奉存候已上

箱作村

請負大工

(中略)

箱作畑村

乍恐奉願上候

一土屋采女正殿領分泉州日根郡箱作村之内畑村御年貢

地ニ浄土宗地藏寺本堂庫裏共屋敷瓦葺ニ而在来候

処去亥七月十三日大風雨洪水ニ付人家共前書本堂裏共

相崩流失仕候其後者右場所荒所ニ相成リ茂容易ニ

地面平等之取謹も難相成候ニ付此度畑村人家を箱作

村之内字堂梅申者引移取建仕度段地頭表江

相願相場所御見分之上御聞ニ相成御座候依之右地

地藏寺も已前之場所者荒地ニ而中々再建難有成

御座候間俱ニ右場所御年貢地引移仮堂相建

申度奉存候間乍恐此段奉願上右願之通御許容被為

成下候ハ、難有仕合奉存候已上

嘉永五子年

箱作村之内畑村

地藏寺当時無住ニ而

五月

長治郎

庄屋 弥助

御奉行様

右之通願出候ニ付致奥書候以上

土屋采女正家来

林勝兵衛

乍恐願書

土屋采女正殿御領分泉州日根郡箱作村



右地藏寺本堂并庫裏屋根瓦葺ニ而在来候処昨

亥年洪水ニ而不残流失仕候間此度在来之通再

建仕度段村方ノ界御奉行所并御地一頭土屋采女正殿

江願上候処作事仕候様御聞濟被成候付雜木相用ハ

再建之細工仕度候間何卒此段御聞濟被為成下度

乍恐奉願上候右願之通御聞濟被成下候ハ、難有

奉存候以上

箱作村

請負大工

嘉永五子年

六月

平七

治助

清七

年行司 地藏寺無住ニ而

覚

一地蔵寺屋敷取之儀者辻堂老丁二堂陸寺

山と唱候所江追々仮堂建立仕度奉存候

字岩一四畝歩

長次郎

分米老石四升四合式勺

字同所一貳畝歩

半兵衛

分米五斗貳升六勺

同下一三畝歩

半四郎

分米七斗八升九勺

字かき田一四畝歩

利兵衛

分米一石四升壹合式勺

万上町一三畝歩

助治郎

分米七斗八升九勺

辻堂下一四畝歩

忠兵衛

分米老石四升壹合式勺

市左衛門分

市兵衛分

辻堂之上山裾へ罷出度奉存候若心得違二も御座候

節者御田地へ屋敷取仕度奉存候以上

右之通屋敷取リ仕候間宜敷御取斗ハ被為成下

候ハ、難有奉存候以上

嘉永四年

亥九月

山中膳大夫様

川邑欣大夫様

乍憚以書付奉願上候

一畑村一流之者共居宅屋敷替仕度奉存候二付

御田地畝高字共奉書上候得共無誰之御田地聊

之内屋敷取致度候儀勿躰至極二奉存候

何卒御田地近辺之山寄せへ成共屋敷取致

度奉存候得共宜敷場所も無御座候爰に

辻堂手続之山山内下シ平成所も御座候

故此辺江屋敷取致度存候乍併屋敷取致候

二ハ大分大騒か様二も奉存候何卒御見分

之上御勘弁被為成下候ハ、難有仕合二奉存候以上

嘉永四年

箱作村東方

亥九月

組頭市兵衛

年寄弥助

庄屋假役藤治郎

山中膳大夫様

川村欣大夫様

乍憚以書附奉願上候

一 当月十三日大洪水ニ付畑村之儀者山崩込潰家

半潰家并死人等数人御座候ニ付右崩山之

辺見廻り候処崩山之手続大ニ口明候所も数々

御座候得者聊之雨ニも又候崩出候か様ニも存女童

ニ至迄匱覺ニ是ヲ驚罷居候故箱作村東方江

罷出借宅ヲ致候可成とも命を繫畑村御田地

永統致度奉存候間何卒御聞濟被為成

下御取斗ひ被下候ハ、難有奉存候以上

嘉永四年 畑村百姓

亥七月 助治郎 市左衛門

忠兵衛 半次郎

利兵衛 長次郎

半兵衛

右之通村方江願出候故私シ共友々御願上奉候

組頭 市兵衛

年寄 弥助

庄屋飯役 藤治郎

山中膳太夫様

川邑欣太夫様

乍憚以書付ヲ奉願上候

一 当月十三日之夜大洪水ニ付畑村之儀者山崩

込潰家半潰家并死人等も数人御座候ニ付右

崩出之辺見廻り候処崩山之手続大ニ崩候

所も数々御座候得者少々之雨ニも又々崩出

候様ニも存女童ニ至迄匱覺ニ是ヲ驚罷居

夫ニ付箱作村東方江罷出借宅致候而成共命を

繫畑村御田地永統致度奉存候何卒御聞

濟成シ被下御取斗ひ被下候ハ、難有仕合ニ奉存

候以上

畑村百姓

嘉永四年 市兵衛 助治郎

亥七月 市左衛門 忠兵衛

半四郎 長治郎

利兵衛 半兵衛

右之通申出候ニ付私シ共おても奉願上候

年寄 弥助

庄屋飯役 藤治郎

山中膳太夫様

川村欣太夫様

瘡かるく無病にして命長し誠に延命
地藏薩埵の垂跡と云ふへし

夫地藏菩薩の靈驗ハ現世ニ而者軍

陣を守護し幸福をあたへ火災をしり

そけもろもろの難病をすくひ給ふ来

世にて閻魔法王を現し衆生の三

悪道の者をあわれミ六道に遊化し

給ひ衆生を済渡し給ふとの御誓願

なり殊に此尊像ハ権化の御作仏

にてましますハ靈驗滔々として歩を

はこふ輩ハ御利生ある事ありて

かそへかたし南無帰命頂礼地藏菩

薩御縁起恭白

右之縁起從古昔雖伝来一衍文錯

簡頗多今因旧文聊和解其意以

使聞者易覺幸令信心之輩示其

功德者也

干時寛政二戊之歲夏六月

南紀田宮環裏坊白翁居士敬白

印 印

(2)箱作畑村洪水ニ付土地邑替諸願書之控(抜)(山中家文書)

嘉永四年(一八五二)七月

(袋)

「嘉永四年辛亥年

箱作村東方畑村嘉永四年七月十三夜稀成

大洪水ニ付家屋土地邑替歎願取斗方諸杯

書物入

七月

勸農方
普請方

山中善太夫

(表紙)

辛 嘉永四年

箱作村畑村洪水ニ付土地邑替諸願書之控

御普請方

山中善太夫手控

亥七月

(二)

史料編

(1) 泉州日根郡箱作村飯峯山地蔵寺御本尊縁起 (宗福寺文書)

寛政二年 (一七九〇) 六月

泉州日根郡箱作村

飯峯山地蔵寺御本尊縁起

抑当寺御本尊地藏菩薩ハ昔時

後三条院の御宇嘉元三乙巳年

覚念と云沙門常に生身の地藏菩

薩を拜せん事を念し誓ひしに或

時あらたなる靈夢を蒙り此尊像

を彫刻し給ふ一刀三礼の御作仏也

然るに昔いつの世の事にてやあり

けん此所の阿弥陀か峯に小堂を建

て安置し有しが其後大災ありて

小堂御本尊共に焼失給ひける爰ニ

一人の山賤常に地藏菩薩を信仰

する事浅からず此尊像の焼失し

給ふ事をかなしミ嘆ハしくおもひ居

たりしが或時此山奥に金色の光り

さしけるを不思議に思ひ尋行て見れハ
奇なるかな先年焼失

給ふとおもひし尊像光明かくやくとして
あらわれ給ひ虚空に花ふり音楽

聞こへ瀧の音ハさながら笙のしらへに

ひとしく心耳をすましけれハ彼山賤

大に驚き信心肝にめいし暫く合掌

してすいきの涙を流しけるかくて

村家の人々に此靈現を語りけれハ諸

人其瑞相のあらたなる事を尊ミ

此所へもり奉り皆打寄とりあへす悦

の酒宴をなしにける此因縁にて

今に正月九日に造酒をそなえ村中

一座して酒宴をなす事也扱夫

此寺を建立し六月廿四日に尊像を

安置奉り則寺号を地藏寺となつけり

菩薩の再顕し給ふ古跡今に残りて

此山中にあり信心の輩ハ御縁日に此

筈の瀧の霊水を汲て目をあらへハ

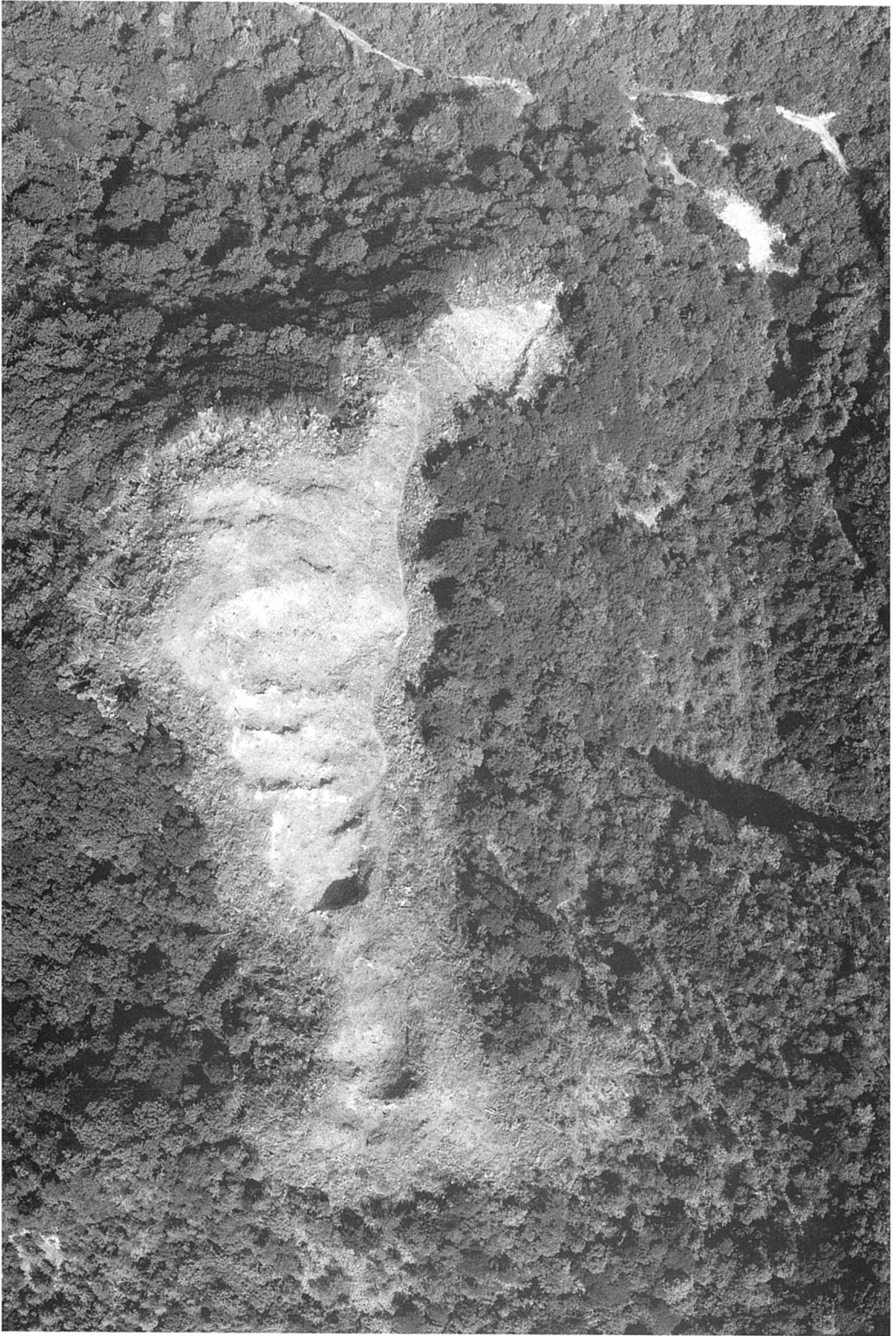
眼病を治し又産湯にさせハ其子痘

図 版

図版一 ミノバ石切場跡周辺空中写真



図版二 調査前全景空中写真





遠景（南から）



南麓の現代採石場跡



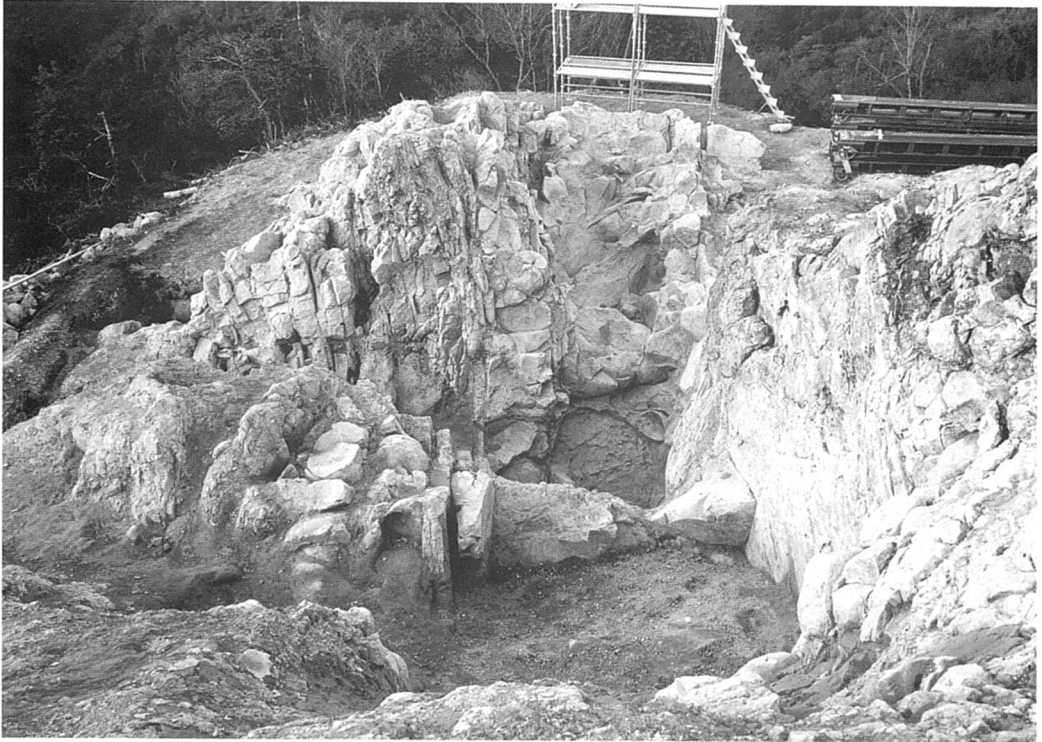
3～7 OX (西から)



3～6 OX (東から)



(北から)



2a-OX (南から)



2a-OX (北から)



ヤ穴の残存状況



2a-OX細部



188



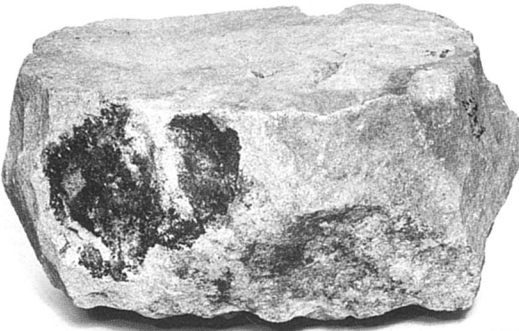
152



188



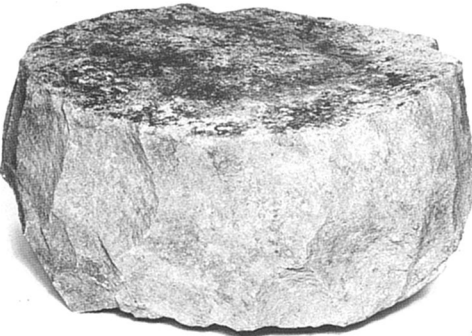
152



114



276



167



186



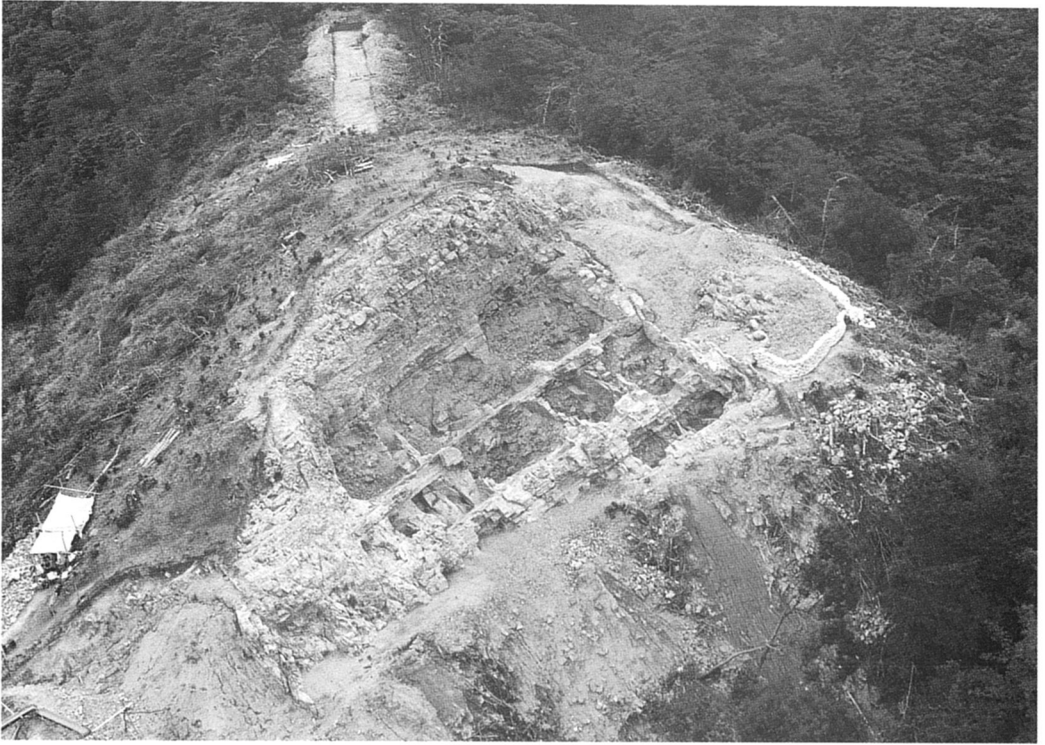
北西から



コッパの集積状況

図版一〇 3-OX 垂直写真





(東北から)



(東から)



(西から)



(南から)



図版一三
3-OX中央部





サキノミの出土状況



337



336



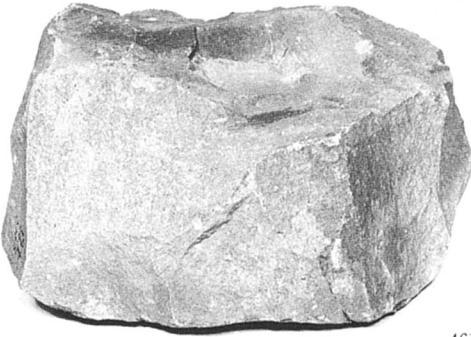
113



299



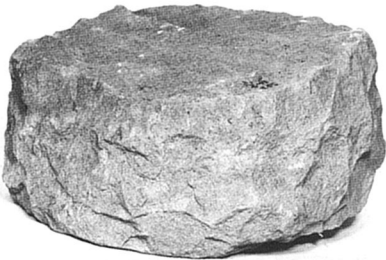
144



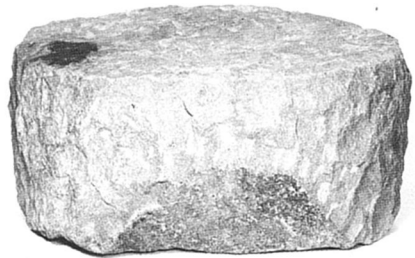
461



340



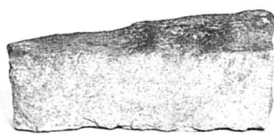
306



341



300



466



304



360



357



469



370



362



619